資料編　第１巻（英語点字の入門）

英語の点字は、基本的には普通の文字と同じようにアルファベットと句読符から成っている。さらに、点字の読み書きを速くするために、点字独特の縮約を加えている。そこで、中学部の第１学年ではアルファベットと句読符を学び、第２学年から第３学年が終了するまでの間に、７つの段階に分けて点字の縮約を学ぶことになっている。高等部の教科書及びアメリカやイギリスの書籍では、これらの点字縮約がすべて使われているので、中学部の間に、出てきた順序に従って十分に学んでおくことが必要である。この資料編の第１巻には、英語の点字に関する事柄がほとんどすべてまとめられている。

１．「点字の配列表」は、英語点字を学ぶ上での基本となるものである。特に、点字縮約の成り立ちの基本となっている。

２．の「アルファベットと発音」から５．の「発音記号の書き方」までは、点字縮約を含まない英語の書き方について、項目ごとにそれぞれ解説してある。

６．の「音節の区切り方」と７．の「主な接頭辞と接尾辞」は、第３学年で学ぶ点字縮約の第６段階と第７段階の規則を理解し、点字縮約を正しく書き表すために参考になるものである。

８．から１４．までは、点字縮約の第１段階から第７段階までの解説である。

１５．から１６．までは、英語の点字縮約の一覧表である。そのうち１５．の「段階別一覧表」は、教科書に出てくる順序にまとめてある。１６．の「アルファベット順一覧表」は、すべての点字縮約を辞書と同じようにアルファベットの順番に並べてあるので、自分が書きたい単語を点字縮約ではどう書けばよいかを調べたいときに活用出来る。

１７．の「字形別一覧表」は、すべての点字縮約を字の形の順番に並べてあるので、読み方が分からない点字縮約に出会ったとき、その綴り字を調べるために活用出来る。なお、字の形の配列順序は、１．の「点字の配列表」の順序に並べられている。資料編は、高等部でも十分に活用できる。

１．点字の配列表

６点点字は、１８２５年にフランス人ルイ・ブライユ（Louis Braille）によって考案された盲人用触読文字である。英語では考案者にちなんで、点字のことをブレイル（Braille）と言っている。６点点字は一マス６点であるから、６４とおりの組合せとなる。ルイ・ブライユはマスあけの記号を除いた６３を次の７行に配列している。

第１行	⠁	⠂	⠉	⠈	⠊	⠐	⠑	⠘	⠙	⠚
第２行	⠄	⠅	⠌	⠍	⠎	⠔	⠕	⠜	⠝	⠞
第３行	⠆	⠇	⠋	⠏	⠖	⠘	⠛	⠟	⠠	⠧
第４行	⠃	⠅	⠍	⠎	⠕	⠗	⠞	⠥	⠭	⠵
第５行	⠁	⠃	⠉	⠙	⠑	⠋	⠛	⠓	⠊	⠚
第６行	⠈	⠊	⠌	⠎	⠐	⠔				
第７行	⠈	⠊	⠌	⠎	⠐	⠔	⠑			

１行目は、上の四つの点の組合せの１５の中から、下がり記号と４・５の点だけの組合せを除いたものである。２、３、４行目は、１行目の記号にそれぞれ３の点、３・６の点又は６の点を加えたものである。５行目は、１行目と同じ形をそのまま下に下げたものである。このように１・４の点を用いない記号を下がり記号という。残りの１３のうち、３の点を含むものを６行目とし、４・５・６の点の組合せを７行目に配列した。ルイ・ブライユは、フランス語のアルファベットに１、２行目と３行目の半分までを当てた。しかし、ここにはＷがない。もともとＷは、Ｕがダブった「ダブルＵ」か、Ｖがダブった「ダブルＶ」などとして扱われていたので、記号を当てなかった。後に、英国人の忠告を入れてＷを加えたが、それが英語やドイツ語などのアルファベットにも使われるようになった。５、６行目の下がり記号は、句読符として用いられ、７行目は、点字独特の記号として用いられている。数字は、１行目に数符を前置して表している。また、楽譜では、１行目から４行目までの最初の３個を除いたものを、それぞれの長さの音符に当てている。また、７行目の記号を、高さを表す音列記号として用いている。英語の点字縮約もこの表をもとに作られている。

アルファベットの中からａ、ｉ、ｏを除いたものと、その他の記号から６行目の□⠈□、□⠊□及び７行目の記号を除いたものは、すべて１マスの縮約として用いられている。また、７行目の□⠈□以外の６つも２マスの縮約の前置点となっている。さらに、５行目の記号と□⠊□は、句読符として用いられている。中には下がり記号の縮約としても用いられるものもある。なお、日本点字においても、考案者の石川倉次は、この表の１行目から５の点を含むものを除いてア行とし､それに３･５･６の点を組み合わせたものを加えて、その他の各行を作っている。以上述べたことからも、この配列表は点字記号の基礎であることが確認できる。

２．　アルファベットと発音

アルファベットは、東地中海地方で考案され、ギリシア・ローマ時代にヨーロッパ全域に広まった。今では世界各地で用いられ、日本語のローマ字や中国語の音声表記（ピンイン）などに用いられている。

英語では、普通、大文字と小文字が、活字体と筆記体の二とおりに表され、これらの４種類は、それぞれ２６文字から成る。点字には、活字体と筆記体の区別はなく、大文字と小文字も次のように小文字に大文字符を前置するだけで　区別している。

⠁ ⠃ ⠉ ⠙ ⠑ ⠋ ⠛ ⠓ ⠊ ⠚
a b c d e f g h i j

⠅ ⠇ ⠍ ⠝ ⠕ ⠏ ⠟ ⠗ ⠎ ⠞
k l m n o p q r s t

⠥ ⠧ ⠺ ⠭ ⠽ ⠵
u v w x y z

⠠⠁ ⠠⠃ ⠠⠉ ⠠⠙ ⠠⠑ ⠠⠋ ⠠⠛ ⠠⠓ ⠠⠊ ⠠⠚
A B C D E F G H I J

⠠⠅ ⠠⠇ ⠠⠍ ⠠⠝ ⠠⠕ ⠠⠏ ⠠⠟ ⠠⠗ ⠠⠎ ⠠⠞
K L M N O P Q R S T

⠠⠥ ⠠⠧ ⠠⠺ ⠠⠭ ⠠⠽ ⠠⠵
U V W X Y Z

これらを次の５グループに分けて、アルファベットと発音の関係を学ぶ。

(1)　長くのばすと「イー」になるもの

⠃ ⠉ ⠙ ⠛ ⠏ ⠞ ⠧ ⠵
b c d g p t v z

これらの読みから後ろの「イー」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

（例）⠃⠁⠞　⠃⠑⠙　⠉⠊⠞⠽　⠉⠑⠝⠞⠑⠗　⠙⠑⠎⠅
bat　bed　city　center　desk

⠙⠕⠇⠇　⠛⠊⠁⠝⠞⠎　⠏⠁⠛⠑　⠏⠑⠝　⠞⠁⠭⠊
doll　Giants　page　pen　taxi

⠞⠑⠝　⠧⠊⠎⠊⠞　⠵⠑⠗⠕　⠵⠕⠕
ten　visit　zero　zoo

ただし、c には「ク」から「ウ」を、g には「グ」から「ウ」をとった発音がある。

（例）⠉⠁⠗　⠉⠕⠕⠅　⠛⠁⠎　⠛⠕⠇⠋
car　cook　gas　golf

(2)　前に「エ」という音がつくもの

⠋　⠇　⠍　⠝　⠎　⠭

f　l　m　n　s　x

これらの読みから前の「エ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

（例）⠋⠁⠝　⠋⠊⠎⠓　⠇⠊⠅⠑　⠇⠊⠏　⠍⠁⠏　⠍⠊⠭

fan　fish　like　lip　map　mix

⠝⠑⠞　⠝⠑⠭⠞　⠎⠞⠁⠗　⠎⠥⠝　⠃⠕⠭

net　next　star　sun　box

ただし、s は、濁る場合もある。

（例）⠇⠕⠎⠑　⠝⠑⠺⠎　⠝⠕⠎⠑　⠗⠊⠎⠑

lose　news　nose　rise

(3)　後ろに「エイ」という音のつくもの

⠚　⠅

j　k

これらの読みから後ろの「エイ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

（例）⠚⠁⠍　⠚⠕⠅⠑　⠅⠑⠽　⠅⠊⠝⠛

jam　joke　key　king

(4)　英語の母音を表すもの

⠁　⠑　⠊　⠕　⠥

a　e　i　o　u

これらが、アルファベットの読みと同じように発音されるとき、その後ろに発音されない e が子音をはさんでつくことが多い。

（例）⠉⠁⠅⠑　⠋⠁⠉⠑　⠎⠉⠑⠝⠑　⠋⠊⠝⠑

cake　face　scene　fine

⠇⠊⠋⠑　⠓⠕⠍⠑　⠗⠕⠎⠑　⠉⠥⠞⠑　⠥⠎⠑

life　home　rose　cute　use

ただし、発音しない e がついても読みが異なる場合と、e がつかなくても、これらと同じ発音を表す場合がある。

（例）⠉⠕⠍⠑　⠙⠕⠝⠑　⠗⠥⠇⠑　⠁⠏⠗⠊⠇

come　done　rule　April

⠅⠊⠝⠙　⠛⠕　⠓⠥⠍⠁⠝　⠍⠥⠎⠊⠉

kind　go　human　music

また、これらの文字は、単独又は二つ以上の組合せでいろいろな発音を表す。

（例）

bat　egg　ink　pot　put

main　August　sea　beauty

bee　field　boat　coin　book

pool　young　mountain　fruit

(5)　その他の文字

h　q　r　w　y

これらのうち、h は日本語のハ行に、r はラ行に、w はワ行に、y はヤ行に似た発音を表すこともある。

（例）

hand　hint　hot　red　rice　run

wax　wet　wood　yard　yes　you

これらの文字は、前のグループの文字と組み合わせて、長母音や二重母音又は三重母音を表す場合もある。

（例）

ah　oh　carpenter　hair　fire

born　turn　saw　new　town

day　eye　boy　player

y には i と同じ用い方があり、q は u と組み合わせて用いられる。

（例）

bicycle　city　my　type

queen　quickly　quite

h は他の文字に添えて別の子音をも表すことがある。

（例）

church　headache　ghost　enough

telephone　she　ship　the

thanks　white

（6）　子音と子音の結び付き

日本語と違って、英語では次のような子音と子音の結び付きがみられる。

（例）

back　bank　camp　dress

little　hand　sky　slip　small

snow　song　spring　stamp

strong　swim　text　train

中でも、他の文字と l か r の組合せには、特に発音上注意を要する。

（例）

block　bread　class　cry　close

cross　fly　fresh　glass

grass　play　present

（7）　発音されない綴り字

英語には、歴史的変化などで発音されない綴り字がある。

（例）

bomb　eight　know　lake

often　Wednesday　write

３．　ローマ字の書き方

ローマ字は、アルファベットを用いて日本語を書き表すもので、日本語の発音を表す表音文字の１つである。同じく表音文字といっても、平仮名や片仮名又は国語音点字などは、音節を表す文字である。すなわち、日本語の「カ、キ、ク、ケ、コ」などは、子音と母音からできている音節であるが、これらの仮名文字では、１つの音節を１つの文字で表している。これに対してローマ字は、子音や母音の１つ１つに１つのアルファベットを当てて表しているので、むしろ発音記号に近い。ローマ字には、訓令式、ヘボン式と日本式の３通りの書き表し方がある。日本語を全部そのままローマ字で書き表す場合には、主として訓令式が用いられ、外国語の中で日本の地名や人名などがローマ字で書き表されるときは、主としてヘボン式が用いられている。すなわち、訓令式の方が規則的で、日本人には覚えやすいのに対して、ヘボン式は外国語ことに英語の綴り字に近いため、日本の地名や人名の読み違いが少ないからである。訓令式は小学校の３年生から学んでいるので、ここではヘボン式を取り上げる。なお、一覧表の中でヘボン式と訓令式が違っている場合には、（　　）の中に訓令式を書き添えてあるので、その相違点を整理して覚えるのもよい。また、一覧表や用例中のローマ字には外字符を用いず、大文字符は必要に応じて使用している。

(1)　清音と濁音など

(a)　清音（ア行からワ行まで）

a　i　u　e　o

ka　ki　ku　ke　ko

sa　shi（si）　su　se　so

ta　chi（ti）　tsu（tu）　te　to

na　ni　nu　ne　no

ha　hi　fu（hu）　he　ho

ma　mi　mu　me　mo

ya　i　yu　e　yo

ra　ri　ru　re　ro

⠗⠁　⠗⠊　⠗⠥　⠗⠑　⠗⠕

wa　i　u　e　o

（b）　濁音、ファ行及び撥音

⠛⠁　⠛⠊　⠛⠥　⠛⠑　⠛⠕

ga　gi　gu　ge　go

⠵⠁　⠵⠊⠨⠵⠊　⠵⠥　⠵⠑　⠵⠕

za　ji（zi）　zu　ze　zo

⠙⠁　⠙⠊⠨⠵⠊　⠙⠥⠨⠵⠥　⠙⠑　⠙⠕

da　ji（di）　zu（du）　de　do

⠃⠁　⠃⠊　⠃⠥　⠃⠑　⠃⠕

ba　bi　bu　be　bo

⠏⠁　⠏⠊　⠏⠥　⠏⠑　⠏⠕

pa　pi　pu　pe　po

⠋⠁　⠋⠊　⠋⠥⠨⠋⠥　⠋⠑　⠋⠕

fa　fi　fu（hu）　fe　fo

⠝

n

（例）　⠁⠅⠊　⠊⠑　⠕⠥⠉⠓⠊　⠑⠅⠊⠍⠁⠑　⠅⠕⠍⠁

aki　ie　ouchi　ekimae　koma

⠓⠁⠛⠕⠊⠁　⠊⠉⠓⠊⠛⠕　⠞⠥⠅⠥⠑　⠅⠁⠺⠁

hagoita　ichigo　tsukue　kawa

⠋⠥⠝⠑　⠩⠥⠝⠃⠥⠝⠩⠓⠊　⠞⠕⠅⠑⠊　⠚⠊⠩⠓⠊⠝

fune　shinbunshi　tokei　jishin

⠽⠁⠍⠁⠅⠥⠵⠥⠗⠑　⠝⠁⠍⠁⠵⠥　⠏⠁⠝⠙⠁

yamakuzure　namazu　panda

⠅⠥⠍⠁⠍⠕⠝

Kumamon

（2）　拗音

（a）　「キャ、キュ、キョ」、「ギャ、ギュ、ギョ」

⠅⠁　⠅⠥　⠅⠕　⠛⠁　⠛⠥　⠛⠕

kya　kyu　kyo　gya　gyu　gyo

（b）　「シャ、シュ、ショ」

⠩⠁　⠩⠥　⠩⠕

sha（sya）　shu（syu）　sho（syo）

(c)　「ジャ、ジュ、ジョ」

ja (zya)　ju (zyu)　jo (zyo)

(d)　「チャ、チュ、チョ」

cha (tya)　chu (tyu)　cho (tyo)

(e)　「ニャ、ニュ、ニョ」、「ヒャ、ヒュ、ヒョ」

nya　nyu　nyo　hya　hyu　hyo

(f)　「ビャ、ビュ、ビョ」、「ピャ、ピュ、ピョ」

bya　byu　byo　pya　pyu　pyo

(g)　「ミャ、ミュ、ミョ」、「リャ、リュ、リョ」

mya　myu　myo　rya　ryu　ryo

(例)

kyonen　gyorome　okyaku

kingyo　shashin　jari　shinju

chawan　densha　Shinjuku

ryokan　myakuhaku

shunpatsuryoku　junbi　janken

(3)　促音と長音

(a)　促音は、次の子音を重ねて書き表す。ただし、ch ではじまる音節が次に来る場合は、tch と書き表す。

(b)　長音は、長音となる母音の前にアクセント符の４の点を添えるのが普通であるが、英文中ではしばしば何も添えない場合がある。

(例)

kitte　shokken　sekken　kokka

bakkin shippai geppu massao

gappei jikken dappi itchi

kotchi sotchi setchi ototchan

chitchai sotchoku okàsan

onîsan onêsan otôsan

otôto imôto senryû

kyôka kyûkyûsha Tôkyô

Tokyo Ôsaka Osaka Kyôto

Kyoto Kyûshû Kyushu

Hokkaido Ryoanji Horyuji

Todaiji Matsuo Basho

Mori Ogai Natsume Soseki

４．　句読符と点字独特の記号

（1）　句読符　⠐⠂⠲⠢⠖⠦⠶⠤⠄⠈⠱⠸⠡⠰⠌⠜⠨⠹⠘⠳⠩⠻⠽

（Punctuation marks）

英語の単語の綴りは続けて書き、単語と単語の間は一マスあけて書く。さらに、それ以上のまとまりで必要な場合、句読符を用いる。点字の句読符の使用法は、普通の文字の場合と同じである。そこでコンピュータのフルキーボードの場合も、その順序に対応する記号のキーを打つだけでよい。

（a）　コンマ⠂　□□⠂（,）

（comma）

語句や節の切れ目，数字の区切り等を明確にするために用いる。

（例）

⠊⠉ ⠊⠍ ⠊⠉⠍⠊⠍ ⠊⠕⠕⠍

I can swim, too.

（私も泳げます。）

⠼⠂⠚⠚⠚⠂⠚⠚⠚

2,000,000

コンマは数符の効力を止めない。

（b）　セミコロン⠆　□□⠆（;）

（semicolon）

二つの文が重なってできた文の前の部分の終わりなどに用いる。

（例）

⠍⠁⠗⠽ ⠙⠗⠊⠧⠑⠎ ⠁ ⠗⠑⠙ ⠉⠁⠗; ⠅⠑⠝ ⠙⠗⠊⠧⠑⠎

Mary drives a red car; Ken drives

⠁ ⠺⠓⠊⠞⠑ ⠕⠝⠑.

a white one.

（メリーは赤い車を運転し、ケンは白い車を運転する。）

（c）　コロン⠒　□□⠒（:）

（colon）

文中で、前に述べた事柄に続けて、詳しい内容を述べる場合に、文を区切るために用いる。なお、固有名詞などの特別の場合を除けば、コンマやセミコロンの後ろは、一マスあけて小文字で書き始めるが、コロンの後ろは、一マスあけた後、文の初めと同じく再び大文字で書き始める。すなわち、シナリオなどの場合は、配役名などの後ろにコロンを打ち、一マスあけて、セリフを大文字で書き始める。

（例）

⠍⠊⠅⠑⠒ ⠞⠓⠁⠝⠅ ⠽⠕⠥⠂ ⠞⠕⠍⠲

Mike: Thank you, Tom.

（マイク：トムありがとう。）

数字の区切りに使う場合は、数符の効力を止めてしまうため、数符を繰り返す必要がある。

2:30 ⠼⠃⠒⠼⠉⠚

(d) ピリオド⠨⠲⠨⠲⠨⠲⠨⠲⠨⠲⠨⠲ □□⠲（.）

（period）

文の終わりの区切りに用いる。

（例）

⠙⠕ ⠽⠕⠥⠗ ⠃⠑⠌⠲

Do your best.

（あなたの最善を尽くしなさい。）

(e) 疑問符⠨⠦⠨⠦⠨⠦⠨⠦⠨⠦⠨⠦ ⠨⠦⠨⠦⠨⠦⠨⠦ □□⠦（?）

（question mark）

疑問文の終わりの区切りに用いる。

（例）

⠱⠓⠑⠝ ⠙⠕ ⠽⠕⠥ ⠛⠑⠞ ⠥⠏⠦

When do you get up?

（あなたはいつ起きますか？）

(f) 感嘆符⠨⠖ ⠨⠖⠨⠖⠨⠖⠨⠖⠨⠖⠨⠖ ⠨⠖⠨⠖⠨⠖⠨⠖ □□⠖（!）

（exclamation mark）

驚き・怒り・喜びなどの気持ちを表すために用いる。

（例）

⠓⠕⠥ ⠏⠗⠑⠞⠽⠖

How pretty!

（なんとかわいいのでしょう。）

(g) アポストロフィー⠨⠄⠨⠄⠨⠄⠨⠄⠨⠄⠨⠄⠨⠄⠨⠄⠨⠄⠨⠄ □□⠄（’）

（apostrophe）

綴りの一部の省略を表すために用いる。

（例）

⠙⠕ ⠝⠕⠞ → ⠙⠕⠝⠞

do not → don't

「～のもの」という意味を表すために用いる。

（例）

⠱⠓⠁⠞⠄⠎ ⠓⠁⠞⠎

Emi's bag

（絵美のかばん）

文字・数字・略称の複数形は 's を付けて表すが、しばしばアポストロフィーは省略される。このような場合、点字でも省略される。

（例）

1970s　⠼⠁⠊⠚⠚⠎　　1970's　⠼⠁⠊⠚⠚⠄⠎

(h)　ハイフン⠤⠤　□□⠤□□（-）

（hyphen）

複合語などのつなぎに用いる。他の記号類と同様に、大文字単語符の効力を無くしてしまうため、ハイフンの後に大文字で始まる語が続く場合は大文字単語符をハイフンの後につける必要がある。（詳しくは大文字符のところで説明する）

（例）

⠑⠤⠍⠁⠊⠇

E-mail

（Ｅメール）

⠙⠙⠧⠤⠗⠕⠍

DVD-ROM

（ディーブイディーロム）

ダッシュの代わりにハイフンが用いられる場合は、前後を１マスあけて使う。

（例）

⠊'⠇⠇ ⠃⠑ ⠗⠑⠁⠙⠽ ⠃⠽ ⠼⠉⠚⠚ ⠤ ⠺⠑⠇⠇ ⠤ ⠍⠁⠽⠃⠑ ⠼⠁⠁⠚.

I'll be ready by 3:00 - well - maybe 3:10.

（３時まで、いや３時１０分までには準備出来ます。）

また、複合語が墨字ではつながっていない場合には点字でもマスあけをする。

（例）

⠋⠊⠧⠑- ⠕⠗ ⠎⠊⠭⠤⠇⠁⠝⠑ ⠋⠗⠑⠑⠺⠁⠽

five- or six-lane freeway

（５または６車線の高速道路）

数字がハイフンでつながっている場合は、数符の効力が継続しないのでハイフンのあとに数符が必要となる。

（例）

⠼⠉⠚⠚⠤⠼⠑⠚⠚⠚⠤⠼⠋⠚⠚⠚⠚

00-1234-5678

(i)　ダッシュ⠤⠤　□□⠤⠤□□　(—)

(dash)

文中の追加説明などに用いる。

（例）

⠁⠏⠏⠇⠑⠎⠀ ⠃⠁⠝⠁⠝⠁⠎⠀ ⠁⠝⠙⠀ ⠕⠗⠁⠝⠛⠑⠎⠀

⠞⠓⠑⠎⠑⠀ ⠁⠗⠑⠀ ⠓⠊⠎⠀ ⠋⠁⠧⠕⠗⠊⠞⠑⠀ ⠋⠗⠥⠊⠞⠎⠲

Apples,　bananas, and oranges these are his favorite fruits.

（りんご、バナナ、そしてオレンジ、これらは彼の好きな果物です。）

a、 i、 o 以外の文字がダッシュの前に来る場合は、グレード１文字符が必要となる。（詳しくはグレード１文字符のところで説明する）

（例）

⠎⠥⠑⠀ ⠏⠀ ⠛⠕⠞⠀ ⠞⠓⠑⠀ ⠚⠕⠃⠲

Sue P got the job.

（スー・ピーがその仕事を得た。）

明確に dash が short dash と long dash で使い分けられていて、区別が必要な場合及び単語を省略する場合に、long dash⠤⠤ ⠤⠤⠤⠤ ⠤⠤⠤⠤⠤⠤　□□⠤⠤□□を用いる。

（例）

⠊⠞⠀ ⠓⠁⠏⠏⠑⠝⠑⠙⠀ ⠊⠝⠀ ⠤⠤⠤⠤

It happened in ⠤⠤.

（それは ⠤⠤で起きた。）

(j)　丸括弧⠐⠣⠐⠜　⠐⠣□□⠐⠜　(　)

(parenthesis)

語句の注記や部分強調又は部分省略などに用いる。

（例）

⠽⠑⠁⠗⠀ ⠐⠣⠎⠐⠜ ⠐⠣⠎⠐⠜

year(s)

(k)　角括弧⠈⠣⠈⠜　⠈⠣□□⠈⠜　[　]

(bracket)

語句の注記などに用いる。

（例）

⠈⠣⠎⠑⠑⠀ ⠏⠁⠛⠑⠀ ⠈⠣⠁⠈⠜

[see page 2]

（２ページを見なさい。）

(l)　ダブルコーテーションマーク⠦⠦　⠴⠴

double quotation mark　“　”

アメリカでは会話などの引用に用いる。イギリスでは引用中の引用に用いられる。ただ、開き記号が his の縮約語、閉じ記号が was の縮約語に読まれる恐れがある場合は、 の形を用いる。また、ダブルコーテーションマークの開き記号の前に、グレード１記号符が置かれると、クエスチョンマークと読まれる恐れがあるため、開き記号のあとにグレード１記号符を置く。

（例）

He said, “I am a cat."

（「我輩は猫である」と彼は言った。）

She said,　‘Please read “Harry Potter.”’

（彼女は、「『ハリー・ポッター』をお読みなさい」と言った。）

(“To be or not … ”)

（「そうあるべきなのか、そうではないのか… 」）

Spell W-a-l-k.

（「W-a-l-k」と綴りなさい。）

(m)　シングルコーテーションマーク

single quotation mark

イギリスでは、会話など引用に用いる。アメリカでは引用中の引用に用いられる。ただ、開き記号が His の縮約語、閉じ記号が Was の縮約語に読まれる恐れがある場合は、グレード１指示符を前置して用いる。

（例）

He said, ‘I am a cat.’

（「我輩は猫である」と彼は言った。）

She said,　“Please read ‘Harry Potter.’”

（彼女は、「『ハリー・ポッター』をお読みなさい」と言った。）

⠔⠲⠀⠔⠞⠓⠁⠞⠀⠊⠎⠀⠞⠓⠑⠀⠟⠥⠑⠎⠞⠊⠕⠝⠲⠔

(‘ … that is the question.’)

（「 … それが問題だ。」）

（n） エリプシス⠔⠲⠲⠲⠔ □□⠲⠲⠲□□ …

(ellipsis)

単語や文字などの省略に用いる。

（例）

⠔⠲⠲⠲ ⠙⠕ ⠽⠕⠥ ⠇⠊⠅⠑ ⠔

Do you like …?

（あなたは…が好きですか？）

（o） スラッシュ⠔⠸⠎⠇⠁⠎⠓⠔ □□⠸⠎□□ ／

(slash)

頭文字を組み合わせた略語に用いる。

（例）

⠔⠊⠸⠕⠔ I/O input/output （入出力）の略語

「または」の意味で用いる。

（例）

⠓⠑⠸⠎⠓⠑ he/she （彼もしくは彼女）

年月日を表すのに用いる。

（例）

⠼⠉⠸⠼⠁⠁⠸⠼⠃⠚⠚⠁ ３／１１／２０１１

（２０１１年３月１１日）

スラッシュで数符の効力が継続しないので、スラッシュのあとに

数符が必要となる。

（p） アステリスク⠔⠊⠎⠞⠑⠗⠊⠎⠅⠔ □□⠔⠊□□ *

(asterisk)

注を表すのに用いる。

（例）

⠞⠕⠋⠥⠀⠊⠎⠀⠍⠁⠙⠑⠀⠋⠗⠕⠍⠀⠀⠎⠕⠽⠃⠑⠁⠝⠎⠲

⠀⠀⠔⠊⠎⠞⠑⠗⠊⠎⠅⠔ ⠔⠍⠁⠙⠑⠔

Tofu is made from * soybeans.

*soybean 大豆

（q） アンパサンド⠔⠊⠍⠏⠁⠎⠁⠝⠙⠔ □□⠔⠍□□ &

(ampersand)

英語では and に相当する記号。複数の事柄を同格で並べるのに用いる。

（例）

⠠⠃⠯⠠⠃

B&B　（bed and breakfast の略で、朝食付きの民宿）

この場合、B は記号に接しているので But&But と読まれることは無く

グレード 1 記号符は用いない。

(r)　アットマーク⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅　⠈⠁⠞　　□□⠈⠁□□

@　　(commercial at)

電子メールのアドレスでユーザー名とドメイン名を区切るのに用いる。

（例）

⠊⠝⠋⠕⠈⠓⠁⠗⠁⠺⠑⠃⠲⠚⠏

info@haraweb.jp

(s)　小数点⠈⠁⠞　⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅　⠈⠁⠞　　□□⠈⠁　　.

(decimal sign)

ピリオドと同じ形を小数点にも電子メールのドットにも用いる。

（例）

⠼⠉⠲⠁⠙　　3.14

数符の効力は、ピリオドでは失われない。

(t)　波形⠈⠁⠞　⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅　⠈⠁⠞　　□□⠈⠁□□　　~

(swung dash)

任意の語や字の代わりに用いる。

（例）

⠞⠁⠅⠑　⠉⠁⠗⠑　⠕⠋　⠉⠁⠗⠑

take care of ~

(u)　ビュレット⠈⠁⠞　⠈⠁⠞　　□□⠈⠁□□　⠤

(bullet)

箇条書きにする際に、各項目や見出しの前に目印としてつける。

⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞

⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅□⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅　⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞

⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅□⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞

⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅□⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞

⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅□⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞⠍⠁⠗⠅⠈⠁⠞

INGREDIENTS：　（原料)

・Wheat flour　（小麦粉）

・Butter　（バター）

・Eggs　（卵）

・Sugar　（砂糖）

(2)　単位記号⠨⠁⠊⠞⠁⠉⠓⠁

Unit symbols

(a)　ポンド記号⠨⠁⠏⠕⠝⠙⠁⠉⠓⠁　⠨⠁⠏⠕⠝⠙⠁⠉⠓⠁　⠨⠁⠏

£　(pound sign)

（例）

⠨⠁⠏⠃⠚⠚　£20

(b)　度記号⠨⠁⠙⠑⠛⠗⠑⠑⠁⠉⠓⠁　⠨⠁⠙⠑⠛⠗⠑⠑⠁⠉⠓⠁　⠨⠁⠙⠑

°　(degree sign)

（例）

⠨⠁⠙⠑⠛⠗⠑⠑⠁⠉⠓⠁　20°

⠨⠁⠙⠑⠛⠗⠑⠑⠁⠉⠓⠁⠉　20°C

⠨⠁⠙⠑⠛⠗⠑⠑⠁⠉⠓⠁⠋　70°F

(c)　円記号⠨⠁⠉⠊⠗⠉⠓⠁　⠨⠁⠉⠊⠗⠉⠓⠁⠉⠓⠁　⠨⠁⠉⠊

￥　（yen sign)

（例）

⠨⠁⠉⠊⠗⠉⠓⠁⠉⠓⠁　￥360

（d）　ドル記号⠨⠁⠙⠕⠇⠇⠁⠗⠉⠓⠁　⠨⠁⠙⠕⠇⠇⠁⠗⠉⠓⠁　⠨⠁⠙⠕

$　（dollar sign)

（例）

⠨⠁⠙⠕⠇⠇⠁⠗⠉⠓⠁　$100

（e）　パーセント記号⠨⠁⠏⠑⠗⠉⠑⠝⠞⠉⠓⠁⠉⠓⠁　⠨⠁⠏⠑⠗⠉⠑⠝⠞⠉⠓⠁　⠨⠁⠏⠑

％　（percent sign)

（例）

⠨⠁⠏⠑⠗⠉⠑⠝⠞⠉⠓⠁　90％

（3）　点字独特の記号　⠨⠁⠉⠕⠍⠏⠕⠎⠊⠞⠊⠕⠝⠉⠓⠁⠉⠓⠁⠎⠊⠛⠝⠎　⠨⠁⠉⠕⠍⠏⠕⠎⠊⠞⠊⠕⠝⠉⠓⠁⠎⠊⠛⠝⠎

（Composition signs [Indicators]）

点字は、普通の文字のように文字の形や大きさを変えられないので、これらを表す場合、特別な記号を用いる。

（a）　大文字符　⠨⠁⠉⠁⠏⠊⠞⠁⠇⠉⠓⠁⠗⠉⠓⠁　⠨⠁⠉⠁⠏⠊⠞⠁⠇⠉⠓⠁⠗⠉⠓⠁⠊⠝⠙⠊⠉⠁⠞⠕⠗⠉⠓⠁　⠨⠁⠉⠁　⠨□□　(capital letter indicator)

固有名詞や文の初めなど、頭文字一文字だけが大文字の場合に、その文字の前に用いる。

（例）

⠠⠛⠑⠕⠗⠛⠑ ⠠⠺⠁⠎⠓⠊⠝⠛⠞⠕⠝

George Washington

(b)　大文字単語符　⠐⠣⠉⠁⠏⠊⠞⠁⠇ ⠺⠕⠗⠙
⠊⠝⠙⠊⠉⠁⠞⠕⠗ ⠐⠜　⠠⠠□□　(capital word indicator)

単語全部が大文字で書かれている場合に、その単語の前に用いる。

（例）

⠠⠠⠎⠞ ⠕⠏⠖

STOP!（止まれ！）

大文字単語符は、マスあけ・ハイフン・ダッシュ・アポストロフィー　・スラッシュ・数字などで、その効力は終わる。

BOB'S CAFE　⠠⠠⠃⠕⠃⠄⠠⠎ ⠠⠠⠉⠁⠋⠑

(c)　大文字パッセージ符　⠐⠣⠉⠁⠏⠊⠞⠁⠇ ⠏⠁⠎⠎⠁⠛⠑
⠊⠝⠙⠊⠉⠁⠞⠕⠗ ⠐⠜　⠠⠠⠠

(capital passage indicator)

３語以上、大文字の単語が続く時は、大文字パッセージ符で始め、大文字終止符で閉じる。

(d)　大文字終止符　⠐⠣⠉⠁⠏⠊⠞⠁⠇ ⠞⠑⠗⠍⠊⠝⠁⠞⠕⠗ ⠐⠜
(capital terminator)

□□⠠⠄□□

（例）

⠠⠠⠠⠊ ⠁⠍ ⠁ ⠉⠁⠞⠲⠠⠄
⠠⠠⠠⠊ ⠁⠍ ⠁ ⠉⠁⠞⠠⠄⠲

I AM A CAT.

⠰⠠⠠⠉⠙⠠⠄⠎

CDs

(e)　イタリック記号符　⠐⠣⠊⠞⠁⠇⠊⠉ ⠎⠽⠍⠃⠕⠇
⠊⠝⠙⠊⠉⠁⠞⠕⠗ ⠐⠜　⠨⠆□□

（italic symbol indicator）

次の文字、もしくは記号がイタリック体である時に用いる。最初の文字だけがイタリック体であれば、縮約であっても用いることができる。

（例）

⠨⠆⠃⠗⠊⠛⠓⠞

*b*right

⠨⠆⠓

*h*ave

(f)　イタリック単語符　⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂　⠨⠂⠨⠂
⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂　⠨⠂⠨⠂□□
（italic word indicator)
その後に続く、単語や文字・記号列がイタリック体である時に
用いる。
（例）
⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂
I like *manga*.
大文字単語符とは異なり、マスあけや終止符だけが、その効力を
終わらせる。
(g)　イタリックパッセージ符　⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂　⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂
⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂　(italic passage indicator)
⠨⠂⠨⠂
(h)　イタリック終止符　⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂
⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂　⠨⠂⠨⠂　（italic terminator）
イタリック体の単語が３語以上続く時は、イタリックパッセージ符
で始め、イタリック終止符で閉じる。
（例）
⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂
Rome was not built in a day.
（ローマは一日にしてならず。）
(i)　グレード１記号符　⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂
⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂　⠨⠂□□　(grade 1 symbol indicator)
a、 i、 o 以外のアルファベットや独立した句読符の前に置く。
（例）
⠨⠂　⠨⠂⠨⠂　⠨⠂　⠨⠂　⠨⠂⠨⠂
a　e　i　o　u
⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂
end　it　with　a　?
(j)　グレード１単語符　⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂
⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂　⠨⠂⠨⠂□□
（grade 1 word indicator）
（例）
⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂
T-H-I-E-F!
(k)　グレード１パッセージ符　⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂ ⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂⠨⠂

⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰　　⠰⠰⠰□□　（grade 1 passage indicator）

(l)　グレード１終止符　⠰⠰⠰ ⠠⠠⠠⠰⠰⠰ ⠰⠰⠰

⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰ ⠰⠰⠰　　⠰⠰⠰　（grade 1 terminator）

（例）

⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰

s-t-o-p　　r-i-g-h-t　　n-o-w

(4)　これらの記号の提示順序

句読符と点字独特の記号が二つ以上重なった場合には、次の順序に書き表すことになっている。

(a)　丸括弧か角括弧の開き

(b)　コーテーションマークの開き

(c)　イタリック符

(d)　文字符

(e)　アポストロフィー

(f)　大文字符

(g)　閉じの記号

（例）

⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰　⠰⠰⠰　⠠⠠⠠⠰⠰⠰　⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰⠠⠠⠠⠰⠰⠰

（"*Z is the last.*"）

（Ｚは最後である。）

(5)　英語と日本語の記号の相違点

仮名文字の数は、アルファベットの二倍もあるので、句読符などを共通にすることは難しい。主な相違点は、次のとおりである。

(a)　コンマやセミコロンと読点や中点

コンマ（２の点）やセミコロン（２・３の点）は、促音符や古文の「ゐ」と重なるので、中点（５の点）や読点（５・６の点）は 半マス後ろにずらしてある。また、中点や読点の用法は、コンマ・セミコロンのように厳密ではなく、点字は特にあいまいだった。

(b)　英語の疑問符（２・３・６の点）と日本語の疑問符（２・６の点）

英語の疑問符は、en の縮約□⠰⠠□と重なるため、他の国とは別な記号□⠠⠰□に変えている。

(c)　コーテーションマークとかぎ類

⠠⠰□□⠠⠰　→　⠰⠠⠠□□⠠⠠⠰ 又は ⠠⠰□□⠠⠰

“　　”　　「　　」　　「　　」

⠦⠴□□⠦⠴　→　⠦⠴□□⠴⠦

‘　　’　　『　　』

などのように、英語と日本語の記号は異なっているが、撥音符の□⠴□（ん）と重なるのでやむを得ない。

(d)　ダッシュと棒線

□□⠤⠤□□　→　□□　⠐⠐⠐⠐　□□などと高さとマスあけが異なるが、かぎや長音符との混同を避けるためやむを得ない相違点である。

(e)　文字符と外字符及び外国語引用符

□⠰□は、英語では点字縮約ではないアルファベットそのものであることを示すが、日本語では外国の文字であることを示し,意味が異なる。また、⠐□□⠐は、英語ではコーテーションマーク だが、日本語では外国の語句や文字を表す記号である点が異なっている。

☆　辞書や参考書又は試験問題などで､これらが混ざって出てきたとき、その使い分けを注意する必要がある。

５．　発音記号の書き方

単語の発音を点字で表記する記号として、日本では Daniel Jones 式の発音表記を基に、１９３３年にイギリスで決められたものが使われている。現在、発音表記で一般的に使われている国際音声記号は、Daniel Jones 式と比較すると、記号の数だけでなく補助記号も多く使われている。そのため、教科書及びこの資料編では、従来からの表記を採用している。なお、国際音声記号の点字表記については北米点字委員会（BANA）のホームページを参照して頂きたい。なお、アメリカでは発音されるが、イギリスでは発音されない場合などに、発音記号が斜体字で表記される場合があるが、この教科書では⠰を前につけて、表している。

(1)　発音記号に伴う符号

(a)　発音記号符　⠰□□⠰

発音記号の前後を囲む。

(b)　第一ストレス符（primary stress sign）

⠰　（４・５・６の点）

最も強いアクセントの母音の前に置く。

(c)　第二ストレス符（secondary stress sign）

⠰　（４・５の点）

二番目のアクセントの母音の前に置く。

(2)　母音（Ｖｏｗｅｌ）

⠼⠊⠒　—　⠎⠊⠒　⠼⠎⠊⠒

［ｉ：］　see　［ｓｉ：］

⠼⠊⠝　—　⠔⠝　⠼⠊⠝

［ｉ］　in　［ｉｎ］

⠼⠑⠙　—　⠃⠗⠑⠙　⠼⠃⠗⠑⠙

［ｅ］　bread　［ｂｒｅｄ］

⠼⠁⠞　—　⠉⠁⠞　⠼⠉⠁⠞

［æ］　cat　［ｋæｔ］

⠼⠁⠗　—　⠋⠁⠞⠓⠑⠗　⠼⠋⠁⠞⠓⠑⠗

［ɑ：］　father　［ｆɑ́：ðə *r*］

⠼⠕⠗　—　⠙⠗⠕⠏　⠼⠙⠗⠕⠏

［ɑ］　drop　［ｄｒɑｐ］（米）

⠼⠕⠗　—　⠙⠗⠕⠏　⠼⠙⠗⠕⠏

［ɔ］　drop　［ｄｒɔｐ］（英）

⠼⠃⠁⠇⠇　—　⠃⠁⠇⠇　⠼⠃⠁⠇⠇

［ɔ：］　ball　［ｂɔ：ｌ］

⠼⠥⠞　—　⠋⠥⠞　⠼⠋⠥⠞

［ｕ］　foot　［ｆｕｔ］

⠼⠥⠝　—　⠍⠥⠝　⠼⠍⠥⠝

［ｕ：］　moon　［ｍｕ：ｎ］

⠼⠉⠥⠏　—　⠉⠥⠏　⠼⠉⠥⠏

［ʌ］　cup　［ｋʌｐ］

⠼⠃⠁⠗⠙　—　⠃⠁⠗⠙　⠼⠃⠁⠗⠙

［ə：］　bird　［ｂə：*r*ｄ］

⠼⠁⠍⠑⠗⠊⠉⠁　—　⠼⠁⠍⠑⠗⠊⠉⠁　⠼⠁⠍⠑⠗⠊⠉⠁

［ə］　America　［əmérｉｋə］

⠼⠋⠑⠊⠎　—　⠋⠑⠊⠎　⠼⠋⠑⠊⠎

［ｅｉ］　face　［ｆｅｉｓ］

⠼⠛⠕⠥　—　⠛⠕　⠼⠛⠕⠥

［ｏｕ］　go　［ｇｏｕ］

⠼⠞⠁⠊⠍　—　⠞⠁⠊⠍　⠼⠞⠁⠊⠍

［ａｉ］　time　［ｔａｉｍ］

⠣⠁⠥⠜ — ⠓⠁⠥⠎ ⠣⠓⠁⠥⠎⠜

［a u］ house ［h a u s］

⠣⠕⠊⠜ — ⠃⠕⠊ ⠣⠃⠕⠊⠜

［ɔ i］ boy ［b ɔ i］

⠣⠊⠁⠜ — ⠓⠊⠁⠗ ⠣⠓⠊⠁⠗⠜

［i ə］ here ［h i ə *r*］

⠣⠑⠁⠜ — ⠓⠑⠁⠗ ⠣⠓⠑⠁⠗⠜

［e ə］ hair ［h e ə *r*］

⠣⠕⠒⠜ — ⠙⠕⠗ ⠣⠙⠕⠒⠗⠜

［ɔ ː］ door ［d ɔ ː *r*］

⠣⠥⠁⠜ — ⠏⠥⠗ ⠣⠏⠥⠁⠗⠜

［u ə］ poor ［p u ə *r*］

(3) 子音（Consonant）

⠣⠏⠜ — ⠏⠑⠝ ⠣⠏⠑⠝⠜

［p］ pen ［p e n］

⠣⠃⠜ — ⠃⠕⠭ ⠣⠃⠕⠭⠎⠜

［b］ box ［b ɑ k s］

⠣⠞⠜ — ⠞⠗⠑⠑ ⠣⠞⠗⠊⠒⠜

［t］ tree ［t r i ː］

⠣⠙⠜ — ⠙⠑⠎⠅ ⠣⠙⠑⠎⠅⠜

［d］ desk ［d e s k］

⠣⠅⠜ — ⠉⠇⠕⠅ ⠣⠉⠇⠕⠅⠜

［k］ clock ［k l ɑ k］

⠣⠛⠜ — ⠛⠕⠙ ⠣⠛⠥⠙⠜

［g］ good ［g u d］

⠣⠞⠩⠜ — ⠉⠓⠑⠁⠗ ⠣⠉⠓⠑⠁⠗⠜

［t ʃ］ chair ［t ʃ e ə *r*］

⠣⠙⠵⠜ — ⠚⠥⠍⠏ ⠣⠚⠥⠍⠏⠜

［d ʒ］ jump ［d ʒ ʌ m p］

⠣⠞⠎⠜ — ⠇⠑⠞⠎ ⠣⠇⠑⠞⠎⠜

［t s］ let's ［l e t s］

⠣⠙⠵⠜ — ⠃⠊⠗⠙⠎ ⠣⠃⠊⠗⠙⠎⠜

［d z］ birds ［b ə ː *r* d z］

⠣⠍⠜ — ⠍⠑ ⠣⠍⠑⠜

［m］ me ［m i ː］

[n] — net [n e t]

[ŋ] — sing [s i ŋ]

[l] — lily [l í l i]

[f] — four [f ɔ : r]

[v] — of [ɑ v]

[θ] — thank [θ æ ŋ k]

[ð] — this [ð i s]

[s] — sea [s i :]

[z] — is [i z]

[ʃ] — ship [ʃ i p]

[ʒ] — usual [j ú : ʒ u ə l]

[r] — red [r e d]

[h] — hand [h æ n d]

[w] — woman [w ú m ə n]

[j] — yes [j e s]

[h w] — white [h w a i t]

６．　音節の区切り方

英語の単語の綴り字は、音節ごとに一つのまとまりがあって、接頭辞や接尾辞又は語根などの意味の単位と関係が深い。また、音節の区切り方には、ある程度規則性があるから、これを覚えれば辞書を引く手間が少しは省けるようになる。さらに、英文を書いたり点字の行移しの場合、行末のつなぎ符としてのハイフンを用いて、単語の途中で行を移すことができる区切り目を知ったり、点字縮約の正しい使い方を知るためにも音節の区切り方を学ぶことは重要である。そこで、音節の区切り方の規則の主なものを次に示すこととする。

※　用例中のハイフン□⠤□は、音節の区切り目を示している。

(1)　一音節の単語

一つの音節から成る単語は、切り離してはならない。すなわち、単語の綴りが、どんなに長い場合でも、また、母音字（a、e、i、o、u のこと）が二つ以上ある場合でも、ひと続きに発音する母音（長母音や二重母音などを含む）が一つしかない単語は、一音節単語であるから途中で切ってはならない。

（例）

boy　cat　feet　foot

leaves　likes　through

(2)　一つの母音を表す複数の母音字

二つ以上の母音字が一緒になって一つの母音として一音節に発音されるときは、これらの母音字の間では区切ってはならない。

（例）

beau-ty　de-li-cious　ei-ther

pleas-ure　re-ceive

(3)　一つの子音を表す複数の子音字

二つ以上の子音字（母音字以外の２１の文字）が一緒になって一つの子音を表したり、あるいはそれらがともに発音されないとき、それらの子音字を切り離してはならない。

（例）

fa-ther　graph-ic　high-er

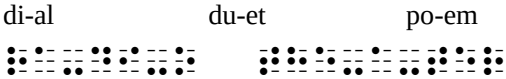
pitch-er　catch-er

(4)　二つの母音を表す二つの母音字

母音字が二つ連続していても各々が別の母音を表すときは、両者の間に音節の切れ目がある。

（例）

di-al　du-et　po-em　re-al

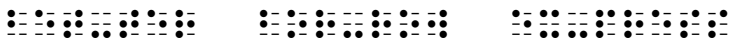


ra-di-o　the-a-ter

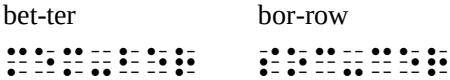
(5)　区切られる複数の子音字

子音字が二つ以上連続している場合、それらが別の音節を表すか、または、その一つが発音されないときは、その間を切り離してよい。

（例）



bet-ter　bor-row　ex-press



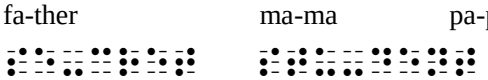
mem--ber　soc-cer

(6)　長母音を表す母音字

一つの母音字が長母音に発音されるとき、次を区切ることができる。

（例）

fa-ther　ma-ma　pa-pa

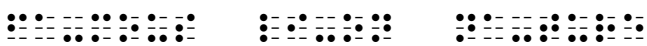


se-cret　stu-dent

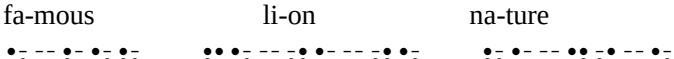
(7)　二重母音を表す母音字

一つの母音字が二重母音に発音されるときも、その母音字と次の字との間に音節の切れ目がある。

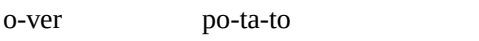
（例）



fa-mous　li-on　na-ture



o-ver　po-ta-to　ra-di-o



ta-ble　li-brar-y

(8)　長母音か二重母音の直後の r

長母音あるいは二重母音のすぐ次の r は、次に子音が来るときは前の音節に、次に母音が来るときは後ろの音節に入れて切り離される。

（例）　⠠⠊⠍⠤⠏⠕⠗⠤⠞⠁⠝⠞　⠠⠍⠑⠤⠍⠕⠤⠗⠊⠤⠁⠇

im-por-tant　　me-mo-ri-al

（9）　アクセントのある短母音を表す母音字

母音字が短母音の発音をし、それにアクセントがあるときは、その次の子音字をその音節に含めて綴りを切る。

（例）　⠠⠃⠗⠕⠞⠓⠤⠑⠗　⠠⠙⠗⠁⠛⠤⠕⠝　⠠⠍⠕⠞⠓⠤⠑⠗

broth-er　　drag-on　　moth-er

⠠⠝⠑⠧⠤⠑⠗　⠠⠎⠑⠉⠤⠕⠝⠙

nev-er　　sec-ond

（10）　通則（9）の例外

アクセントのある短母音を表す母音字でも、その次の子音字が［ʃ］，［ｄ ʒ］のの発音をするときは､その子音字は後ろの音節に入れて綴りを切る。

（例）　⠠⠍⠥⠤⠎⠊⠤⠉⠊⠁⠝　⠠⠝⠁⠤⠞⠊⠕⠝⠤⠁⠇

mu-si-cian　　na-tion-al

⠠⠏⠊⠤⠛⠑⠕⠝　⠠⠗⠑⠤⠇⠊⠤⠛⠊⠕⠝

pi-geon　　re-li-gion

⠠⠎⠏⠑⠤⠉⠊⠁⠇

spe-cial

（11）　アクセントのない短母音を表す母音字

母音字が短母音の発音をしても、それにアクセントがないときは、その次の子音字は、次の音節に入れて綴りを切る。

（例）　⠁⠤⠃⠕⠥⠞　⠙⠑⠤⠉⠊⠙⠑　⠑⠤⠗⠁⠎⠤⠑⠗

a-bout　　de-cide　　e-ras-er

⠠⠏⠕⠤⠇⠊⠉⠑

po-lice

（12）　合成語

合成語は、もとの単語に切り離してよい。なお、区切り目をダッシュで示す。

（例）　⠠⠃⠕⠕⠅⠤⠉⠁⠎⠑　⠠⠉⠇⠁⠎⠎⠤⠍⠁⠞⠑

book−case　　class−mate

⠠⠕⠤⠧⠑⠗⠤⠞⠊⠍⠑　⠠⠓⠊⠛⠓⠤⠺⠁⠽

o-ver−time　　high−way

shoe−mak·er　　who−ev·er

（13）　接頭辞

接頭辞は、語根から切り離してよい。

（例）

a-live　　be-tween　　dis-like

un-hap-py

（14）　接尾辞

接尾辞は、語根から切り離してよい。

（例）

child-hood　　care-ful　　farm-er

kind-ness　　hand-some

（15）　動詞や形容詞の語尾の·ed

（a）　［ｉｄ］と発音するときは、綴りを切ってよい。

（例）

hand-ed　　need-ed　　visit-ed

wait-ed　　want-ed

（b）　［ｄ］または［ｔ］と発音するときは、綴りを切ってはならない。

（例）

cried　　killed　　laughed

passed　　reached　　stayed

（16）　ia と音節の区切り目

（a）　i と a が別々な母音として発音されるときは、その間を区切る。

（例）

A-ra-bi-a　　Aus-tri-a

ma-te-ri-al

（b）　i が発音されないときは、ｉと a は区切ってはならない。

（例）　⠁⠎⠊⠁　⠍⠥⠎⠊⠉⠊⠁⠝

A-sia　mu-si-cian

（c）　発音により使い分けることもある。

（例）　⠏⠕⠗⠞⠊⠁　⠏⠕⠗⠞⠊⠁

Por-ti-a　Por-tia

（17）　品詞の異なる同じ綴りの語

同じ綴りの語でも、品詞又は意味の相違で、アクセントと発音に変化が生ずる場合には、音節の切り方にも変化を生ずるものである。

（例）　⠙⠑⠎⠑⠗⠞　⠙⠑⠎⠑⠗⠞

ｄｅｓ-ｅｒｔ　ｄｅ-ｓｅｒｔ

（名詞）砂漠　（他動詞）見捨てる

⠍⠊⠝⠥⠞⠑　⠍⠊⠝⠥⠞⠑

ｍｉｎ-ｕｔｅ　ｍｉ-ｎｕｔｅ

（名詞）一分　（形容詞）くわしい

⠏⠗⠑⠎⠑⠝⠞　⠏⠗⠑⠎⠑⠝⠞

ｐｒｅｓ-ｅｎｔ　ｐｒｅ-ｓｅｎｔ

（名詞）贈り物　（他動詞）贈る

⠗⠑⠉⠕⠗⠙　⠗⠑⠉⠕⠗⠙

ｒｅｃ-ｏｒｄ　ｒｅ-ｃｏｒｄ

（名詞）記録　（他動詞）記録する

（18）　通則適用の判断

通則の（5）、（6）、（7）を適用すべきか、又は（12）、（14）を適用すべきか について判断に苦しむ場合には、その都度辞書で確かめる必要がある。参考のため適用例を示すが、次に併記する同じ語の前は正しく、後ろは誤った適用である。なお、括弧内の数字は通則番号を示す。

（例）

⠁⠋⠞⠑⠗　⠁⠋⠞⠑⠗

aft-er　a-fter

（14）　正　（6）　誤

⠚⠥⠎⠞⠊⠉⠑　⠚⠥⠎⠞⠊⠉⠑

jus-tice　just-ice

（7）　正　（14）　誤

⠠⠇⠥⠝⠉⠓⠤⠑⠕⠝　　⠠⠇⠥⠝⠤⠉⠓⠑⠕⠝

lunch-eon　　lun-cheon

（14）　正　　（5）　誤

（19）　音節を越えた母音と子音の結合と区切り目の判断

母音と子音の音節を越えた結合による発音に引かれて、綴りの切り方に間違いを生ずることがあるが、接頭辞や接尾辞の知識で間違いを防げる。参考のため、de、dis、en、un の接頭辞による分け綴りを示す。なお、４語ともに、左から見出し語、発音記号、正しい区切り方、誤った区切り方の順序で例示する。

（例）

⠠⠙⠑⠎⠞⠗⠕⠽　　⠠⠙⠑⠎⠞⠗⠕⠽

destroy　　［ｄｉ-ｓｔｒɔ́ｉ］

⠠⠙⠑⠤⠎⠞⠗⠕⠽　　⠠⠙⠑⠎⠤⠞⠗⠕⠽

（正）　de-stroy　　（誤）　des-troy

⠠⠙⠊⠎⠁⠛⠗⠑⠑　　⠠⠙⠊⠎⠤⠁⠛⠗⠑⠑

disagree　　［ｄｉｓ-ə ｇｒｉ́ ：］

⠠⠙⠊⠎⠤⠁⠛⠗⠑⠑　　⠠⠙⠊⠤⠎⠁⠛⠗⠑⠑

（正）　dis-agree　　（誤）　di-sagree

enlarge　⠠⠑⠝⠤⠇⠁⠗⠛⠑

［ｅｎ-ｌɑ́：ｒｄʒ］

⠠⠑⠝⠤⠇⠁⠗⠛⠑　　⠠⠑⠤⠝⠇⠁⠗⠛⠑

（正）　en-large　　（誤）　e-nlarge

unhappy　⠠⠥⠝⠓⠁⠏⠏⠽　［ʌｎｈǽｐｉ］

⠠⠥⠝⠤⠓⠁⠏⠤⠏⠽　　⠠⠥⠤⠝⠓⠁⠏⠤⠏⠽

（正）　un-hap-py　　（誤）　u-nhap-py

（20）　-sor と s-er

（a）　s＋or は、-sor となる。

（例）　⠁⠙⠤⠧⠊⠤⠎⠕⠗　　⠎⠏⠕⠝⠤⠎⠕⠗

ad-vi-sor　　spon-sor

（b）　s＋er は、s-er となる。

（例）　⠁⠙⠤⠧⠊⠎⠤⠑⠗　　⠑⠤⠗⠁⠤⠎⠑⠗

ad-vis-er　　e-ra-ser

(21)　ari と ary の r

ari と ary の r は、前又は後ろのいずれに入れてもよい。

（例）　⠁⠉⠛⠁⠗⠊⠥⠍　⠁⠉⠛⠁⠗⠊⠥⠍

a-qua-ri-um　　a-quar-i-um

⠉⠁⠝⠁⠗⠽　⠉⠁⠝⠁⠗⠽

ca-na-ry　　ca-nar-y

(22)　二つの連続した同一子音字

(a)　原語の語尾で同じ子音字が繰り返されていれば切り離さない。

（例）　⠉⠗⠕⠎⠎⠊⠝⠛　⠙⠗⠑⠎⠎⠑⠗

cross-ing　　dress-er

(b)　短母音に続く一つの子音字で終わる単語が、変化のため語尾の子音字が繰り返された場合には、その子音字は二つに切り分ける。

（例）　⠃⠊⠛⠛⠑⠗　⠎⠞⠕⠏⠏⠑⠙

big-ger　　stop-ped

⠺⠗⠊⠞⠞⠑⠝　⠎⠺⠊⠍⠍⠊⠝⠛

writ-ten　　swim-ming

(23)　例外的通則

(a)　一音節に発音する語でも、語源からみて綴り字を切ってもよい語がある。また、二音節の語で一音節の発音をもつ場合も同様である。

（例）　⠇⠁⠽⠑⠗　⠇ l é ə *r*　→　⠇⠁⠽⠑⠗

layer　［l é ə *r*］　lay-er

⠏⠑⠗⠓⠁⠏⠎　⠏ p r æ p s　→　⠏⠑⠗⠓⠁⠏⠎

perhaps　［p r æ p s］　per-haps

(b)　二音節に発音する語でも、綴りを切らない語がある。

（例）　⠏⠗⠊⠎⠍　⠗⠓⠽⠞⠓⠍

prism　rhythm

(c)　三重母音は、発音の点から二重母音に□⠁⠊⠳□を加えたものと考えることもあるが、この場合でも、綴りは切ってはならない。

（例）　⠓⠁⠥⠗　⠓ h a u ə *r*　⠳⠁⠥⠗　⠳ a u ə *r*

⠎⠳⠁⠥⠗　⠎ s a u ə *r*

⠞⠊⠗⠑⠙　⠞ t a i ə *r* d

⠺⠁⠊⠗ ⠨⠺⠁⠊⠘⠗

wire [w a i ə *r*]

７．　主な接頭辞と接尾辞

接頭辞は語根の前にあって意味を付け加え、接尾辞は語根の後ろに付いて意味を加えたり、品詞を変えたりする。そこで、接頭辞や接尾辞を覚えることによって、語根となる、もとの単語から派生した多くの単語の意味を理解したり、その綴りをすぐ記憶することが容易になる。音節の区切り方とも深い関係があるので、これらの主な接頭辞や接尾辞と、これらを含んだ実際の単語の意味や品詞とを辞書などで比較してみよう。

☆　見出し語の綴り字のあと二マスあけて、それらが表す意味を記した。また、接尾辞の最後の括弧の中には、それらの接尾辞が表す品詞を示している。なお、例の中の接頭辞と語根、又は語根と接尾辞の間には、ハイフン□⠤□を入れて区切り目を示している。

接頭辞　⠁⠃⠉⠊⠋⠛⠓⠚⠅⠇　（prefix）

（1）　a-　後ろに来る語の前にｉｎ、ｏｎ、ｔｏなどを添えた副詞句と同じ意味

（例）　⠁⠤⠛⠗⠑⠑　⠁⠤⠍⠕⠝⠛　⠁⠤⠗⠕⠥⠝⠙

a-gree　a-mong　a-round

（2）　ante-　前の、先の

（例）　⠜⠝⠞⠑⠤⠉⠑⠙⠑⠝⠞　⠜⠝⠞⠑⠤⠗⠕⠕⠍

ante-cedent　ante-room

（3）　anti-　反対、反、非、排

（例）　⠜⠝⠞⠊⠤⠺⠁⠗　⠜⠝⠞⠊⠤⠏⠁⠞⠓⠽

anti-war　anti-pathy

（4）　auto-　自動の、自

（例）　⠁⠥⠞⠕⠤⠍⠁⠞⠊⠉　⠁⠥⠞⠕⠤⠍⠕⠃⠊⠇⠑

auto-matic　auto-mobile

（5）　be-　名詞、形容詞、動詞からの動詞化

（例）　⠃⠑⠤⠋⠗⠊⠑⠝⠙　⠃⠑⠤⠉⠁⠇⠍

be-friend　be-calm

（6）　bene-　良い、恩恵

（例）　⠘⠑⠝⠑⠋⠊⠞　⠘⠑⠝⠑⠋⠁⠉⠞⠕⠗

bene-fit　bene-factor

（7）　bi-　２、２回、両方の

（例）　⠘⠃⠊⠉⠽⠉⠇⠑　⠘⠃⠊⠇⠊⠝⠛⠥⠁⠇

bi-cycle　bi-lingual

（8）　co-、com-、con-　共同の、共通

（例）　⠉⠕⠍⠏⠁⠗⠑　⠉⠕⠝⠞⠊⠝⠥⠑

com-pare　con-tinue

（9）　contra-　逆の、反対

（例）　⠉⠕⠝⠞⠗⠁⠙⠊⠉⠞　⠉⠕⠝⠞⠗⠁⠎⠞

contra-dict　contra--st

（10）　counter-　反対、逆、対抗

（例）　⠉⠕⠥⠝⠞⠑⠗⠁⠞⠞⠁⠉⠅

counter-attack

（11）　de-　奪い取る、廃止する

（例）　⠙⠑⠍⠑⠗⠊⠞

de-merit

（12）　dis-　奪取、不、否

（例）　⠙⠊⠎⠁⠛⠗⠑⠑　⠙⠊⠎⠇⠊⠅⠑

dis-agree　dis-like

（13）　em-、en-　…の状態にさせる（する）

（例）　⠑⠍⠏⠕⠺⠑⠗　⠑⠝⠗⠊⠉⠓

em-power　en-rich

（14）　ex-　外へ

（例）　⠑⠭⠏⠕⠗⠞　⠑⠭⠁⠍⠏⠇⠑

ex-port　ex-ample

（15）　extra-　…の外の

（例）　⠢⠭⠞⠗⠁⠤⠕⠗⠙⠊⠝⠁⠗⠽

extra-ordinary

（16）　fore-　…の前の（に）

（例）　⠋⠕⠗⠑⠤⠉⠁⠎⠞　⠋⠕⠗⠑⠤⠓⠑⠁⠙

fore-cast　fore-head

（17）　hemi-　片方の

（例）　⠓⠑⠍⠊⠤⠎⠏⠓⠑⠗⠑

hemi-sphere

（18）　im-、in-　中に（へ）

（例）　⠊⠍⠤⠏⠕⠗⠞　⠊⠝⠤⠙⠕⠕⠗

im-port　in-door

（19）　il-、im-、in-、ir-　否定

（例）　⠊⠇⠤⠇⠑⠛⠁⠇　⠊⠗⠤⠗⠑⠛⠥⠇⠁⠗

il-legal　ir-regular

（20）　inter-　の間（内）に、相互に（の）

（例）　⠊⠝⠞⠑⠗⠤⠝⠁⠞⠊⠕⠝⠁⠇　⠊⠝⠞⠑⠗⠤⠧⠊⠑⠺

inter-national　inter-view

（21）　mal-　悪い

（例）　⠍⠁⠇⠤⠞⠗⠑⠁⠞

mal-treat

（22）　micro-　小さい、微少な

（例）　⠍⠊⠉⠗⠕⠤⠎⠉⠕⠏⠑　⠍⠊⠉⠗⠕⠤⠺⠁⠧⠑

micro-scope　micro-wave

（23）　mis-　誤って、悪い

（例）　⠍⠊⠎⠤⠞⠁⠅⠑　⠍⠊⠎⠤⠥⠝⠙⠑⠗⠎⠞⠁⠝⠙

mis-take　mis-understand

（24）　mono-　１、単（一）の

（例）　⠍⠕⠝⠕⠤⠗⠁⠊⠇　　⠍⠕⠝⠕⠤⠞⠕⠝⠑

mono-rail　　mono-tone

（25）　non-　　否定の否…、無…

（例）　⠝⠕⠝⠤⠎⠞⠕⠏　　⠝⠕⠝⠤⠏⠗⠕⠋⠊⠞

non-stop　　non-profit

（26）　out-　　外へ（に）、…より多く…する

（例）　⠳⠞⠤⠙⠕⠕⠗　　⠳⠞⠤⠛⠗⠕⠺

out-door　　out-grow

（27）　over-　　あまりに、過度に、越して

（例）　⠕⠧⠻⠤⠺⠕⠗⠅　　⠕⠧⠻⠤⠞⠊⠍⠑

over-work　　over-time

（28）　pan-　　すべての、あまねく、全

（例）　⠏⠁⠝⠤⠏⠁⠉⠊⠋⠊⠉　　⠏⠁⠝⠤⠕⠗⠁⠍⠁

Pan-Pacific　　pan-orama

（29）　poly-　　多くの

（例）　⠏⠕⠇⠽⠤⠏⠓⠑⠝⠕⠇　　⠏⠕⠇⠽⠤⠏⠓⠕⠝⠽

poly-phenol　　poly-phony

（30）　post-　　…の後（のち）、…の後（あと）で、…後（ご）

（例）　⠏⠕⠎⠞⠤⠎⠉⠗⠊⠏⠞　　⠏⠕⠎⠞⠤⠎⠑⠁⠎⠕⠝

post-script　　post-season

（31）　pre-　　あらかじめ、…前（まえ）の

（例）　⠏⠗⠑⠤⠏⠁⠊⠙　　⠏⠗⠑⠤⠏⠁⠗⠑

pre-paid　　pre-pare

（32）　pro-　　代理、賛成

（例）　⠏⠗⠕⠤⠝⠕⠥⠝　　⠏⠗⠕⠤⠚⠁⠏⠁⠝⠑⠎⠑

pro-noun　　pro-Japanese

（33）　re-　　再び…しなおす

（例）　⠗⠑⠤⠉⠕⠧⠑⠗　　⠗⠑⠤⠋⠕⠗⠍

re-cover　　re-form

（34）　self-　　自ら、自分で（に、を）

（例）　⠎⠑⠇⠋⠤⠉⠕⠝⠞⠗⠕⠇　　⠎⠑⠇⠋⠤⠎⠑⠗⠧⠊⠉⠑

self-control　　self-service

（35）　semi-　　半分の、半

（例）　⠎⠑⠍⠊⠤⠉⠕⠇⠕⠝　　⠎⠑⠍⠊⠤⠋⠊⠝⠁⠇

semi-colon　　semi-final

（36）　sub-　　下の（位の）、副の

（例）　⠎⠥⠃⠤⠺⠁⠽　　⠎⠥⠃⠤⠞⠊⠞⠇⠑

sub-way　　sub-title

（37）　super-　　非常に、…の上に、高度の

（例）　⠎⠥⠏⠑⠗⠤⠍⠁⠝　　⠎⠥⠏⠑⠗⠤⠑⠭⠏⠗⠑⠎⠎

super-man　　super--express

（38）　syl-、sym-、syn-　　共に、同時、類似、合わせて

（例）　⠎⠽⠍⠤⠋⠕⠝⠽　　⠎⠽⠝⠤⠉⠗⠕⠝⠊⠵⠑

sym-phony　　syn-chronize

（39）　trans-　　変えて、越えて、横切って、かなた

（例）　⠞⠗⠁⠝⠎⠤⠋⠕⠗⠍　　⠞⠗⠁⠝⠎⠤⠏⠕⠗⠞

trans-form　　trans-port

（40）　tri-　　３、３倍の、三重の

（例）　⠞⠗⠊⠤⠁⠝⠛⠇⠑　　⠞⠗⠊⠤⠉⠽⠉⠇⠑　　⠞⠗⠊⠤⠏⠇⠑

tri-angle　　tri-cycle　　tri-ple

（41）　ultra-　　超えた、過ぎた

（例）　⠥⠇⠞⠗⠁⠤⠎⠕⠝⠊⠉　　⠥⠇⠞⠗⠁⠤⠧⠊⠕⠇⠑⠞

ultra-sonic　　ultra-violet

（42）　un-　　打ち消し、反対

（例）　⠥⠝⠤⠓⠁⠏⠏⠽　　⠥⠝⠤⠇⠕⠉⠅

un-happy　　un-lock

（43）　under-　下に（の）

（例）　⠥⠝⠙⠻⠤⠤⠇⠊⠝⠑　　⠥⠝⠙⠻⠤⠤⠞⠗⠕⠺

under--line　　under--throw

（44）　uni-　　一つ、単（一）の

（例）　⠥⠝⠊⠤⠤⠋⠕⠗⠍　　⠥⠝⠊⠤⠤⠧⠻⠎⠁⠇

uni-form　　uni-versal

（45）　up-　　上の方に（の、へ）

（例）　⠥⠏⠤⠤⠎⠞⠁⠊⠗⠎　　⠥⠏⠤⠤⠇⠕⠁⠙

up-stairs　　up-load

（46）　vice-　　代理、副

（例）　⠧⠊⠉⠑⠤⠤⠉⠁⠏⠞⠁⠊⠝　　⠧⠊⠉⠑⠤⠤⠏⠗⠑⠎⠊⠙⠑⠝⠞

vice-captain　　vice-president

接尾辭　⠤⠤⠎⠥⠋⠋⠊⠭　（suffix）

（1）　-able（-ible）　…できる。（形）

（例）　⠤⠤⠏⠕⠗⠞⠤⠤⠁⠃⠇⠑　　⠤⠤⠺⠁⠎⠓⠤⠤⠁⠃⠇⠑

port-able　　wash-able

（2）　-al　　状態、関係などを表す。（形、名）

（例）　⠤⠤⠝⠁⠞⠊⠕⠝⠤⠤⠁⠇　　⠤⠤⠍⠥⠎⠊⠉⠤⠤⠁⠇

nation-al　　music-al

（3）　-ance　行動、状態、性質を表す。（名）

（例）　⠤⠤⠁⠎⠎⠊⠎⠞⠤⠤⠁⠝⠉⠑　　⠤⠤⠏⠻⠋⠕⠗⠍⠤⠤⠁⠝⠉⠑

assist-ance　　perform-ance

（4）　-ant　　…性の、…をする。（形）

（例）　⠁⠎⠎⠊⠎⠞⠜⠁⠝⠞　　⠊⠝⠎⠞⠜⠁⠝⠞

assist-ant　　inst-ant

（5）　-ation　動作や結果の状態を表す。（名）

（例）　⠛⠗⠁⠙⠥⠜⠁⠞⠊⠕⠝

gradu-ation

（6）　-cy　　職、地位、性質、状態などを表す。（名）

（例）　⠋⠁⠝⠜⠉⠽　　⠏⠗⠊⠧⠜⠁⠉⠽

fan-cy　　priva-cy

（7）　-ed　　…した、…もった。（形）

（例）　⠋⠗⠊⠛⠓⠞⠜⠑⠙　　⠥⠝⠊⠞⠜⠑⠙

frighten-ed　　unit-ed

（8）　-ee　　…されるもの、…を受ける人。（名）

（例）　⠑⠍⠏⠇⠕⠽⠜⠑⠑　　⠞⠗⠁⠊⠝⠜⠑⠑

employ-ee　　train-ee

（9）　-en　　形容詞から動詞を作る。（動）

（例）　⠃⠗⠊⠛⠓⠞⠜⠢⠑⠝　　⠙⠁⠗⠅⠜⠢⠑⠝

bright-en　　dark-en

（10）　-ence　性質、状態などを表す。（名）

（例）　⠏⠁⠞⠊⠜⠢⠑⠝⠉⠑

pati-ence

（11）　-er　　…をする人（物）。（名）

（例）　⠞⠑⠁⠉⠓⠜⠢⠑⠗　　⠉⠇⠑⠁⠝⠜⠢⠑⠗

teach-er　　clean-er

（12）　-ery　　製造所、…業。（名）

（例）　⠃⠁⠅⠜⠢⠑⠗⠽　　⠺⠊⠝⠜⠢⠑⠗⠽

bak-ery　　win-ery

（13）　-ese　…語（人）、…語（の）。（名、形）

（例）　Japan-ese　　Chin-ese

（14）　-ess　女性を表す。（名）

（例）　princ-ess

（15）　-et　小さいものを表す。（名）

（例）　pock-et

（16）　-ette　小さいものを表す。（名）

（例）　cigar-ette　　pinc-ette

（17）　-ful　…に満ちた、…いっぱい。（形、名）

（例）　beauti-ful　　power-ful

（18）　-hood　状態、人格を表す。（名）

（例）　child-hood　　man-hood

（19）　-ic（al）　名詞から形容詞を作る。（形）

（例）　atom-ic　　chem-ical

（20）　-ie、-y　愛称。（名）

（例）　cook-ie　　momm-y

（21）　-ify　…にする（なる）、…化する。（動）

（例）　class-ify　　simpl-ify

（22）　-ine　　化学薬品、女性を表す。（名）

（例）　⠉⠁⠋⠋⠑⠊⠝⠑　　⠓⠑⠗⠕⠊⠝⠑

caffe-in（e）　　hero-ine

（23）　-ish　　…らしい、…（地名）の。（形）

（例）　⠃⠕⠽⠊⠱⠓　　⠑⠝⠛⠇⠊⠱⠓

boy-ish　　Engl-ish

（24）　-ist　　人を表す。（名）

（例）　⠁⠗⠞⠊⠱⠌　　⠏⠊⠁⠝⠊⠱⠌

art-ist　　pian-ist

（25）　-itis　　（病気の名前の）…炎。（名）

（例）　⠁⠏⠏⠑⠝⠙⠊⠉⠊⠱⠞⠊⠱⠎

appendic-itis

（26）　-itude　　抽象名詞を作る。（名）

（例）　⠁⠞⠊⠱⠙⠑　　⠍⠁⠛⠝⠊⠱⠙⠑

at-itude　　magn-itude

（27）　-ity　　形容詞に付けて状態を表す名詞を作る。（名）

（例）　⠁⠉⠞⠊⠱⠽　　⠗⠑⠁⠇⠊⠱⠽

activ-ity　　real-ity

（28）　-ive　　傾向、性質、機能を表す。（形）

（例）　⠁⠉⠞⠊⠱⠧⠑　　⠑⠭⠏⠑⠝⠎⠊⠱⠧⠑

act-ive　　expens-ive

（29）　-ize　　…化する。（動）

（例）　⠉⠥⠎⠞⠕⠍⠊⠱⠵⠑　　⠍⠑⠍⠕⠗⠊⠱⠵⠑

custom-ize　　memor-ize

（30）　-le　　反復を表す。（動）

（例）　⠞⠺⠊⠝⠅⠱⠇⠑

twink-le

（31）　-less　　…のない、…できない。（形）

（例）　care-less　　use-less

（32）　-let　　小さいもの。（名）

（例）　book-let　　leaf-let

（33）　-like　　…らしい、…のような。（形）

（例）　child-like　　aimal-like

（34）　-ling　　小さい物、ちっぽけな物。（名）

（例）　duck-ling

（35）　-ly　　形容詞や名詞から副詞や形容詞を作る。（副、形）

（例）　bad-ly　　friend-ly

（36）　-ment　　結果、手段、状態を表す。（名）

（例）　achieve-ment　　apart-ment

（37）　-ness　　性質、状態を表す。（名）

（例）　kind-ness　　happi-ness

（38）　-logy　　…学。（名）

（例）　techno-logy　　eco-logy

（39）　-or　　…する人（物）。（名）

（例）　doct-or　　elevat-or

（40）　-ory　…所、…場。（名）

（例）　⠋⠁⠉⠞⠤⠕⠗⠽　⠇⠁⠃⠕⠗⠁⠞⠤⠕⠗⠽

fact-ory　laborat-ory

（41）　-ous　名詞から形容詞を作る。（形）

（例）　⠙⠁⠝⠛⠑⠗⠤⠕⠥⠎　⠋⠁⠍⠤⠕⠥⠎

danger-ous　fam-ous

（42）　-ry　状態、性質、学術を表す。（名）

（例）　⠎⠇⠁⠧⠑⠤⠗⠽　⠃⠗⠁⠧⠑⠤⠗⠽　⠉⠓⠑⠍⠊⠎⠞⠤⠗⠽

slave-ry　brave-ry　chemist-ry

（43）　-ship　状態や役割を表す。（名）

（例）　⠋⠗⠊⠑⠝⠤⠱⠊⠏　⠎⠏⠕⠗⠞⠎⠍⠁⠝⠤⠱⠊⠏

friend-ship　sportsman-ship

（44）　-sion　動作又は状態を表す。（名）

（例）　⠧⠊⠤⠱⠊⠕⠝

vi-sion

（45）　-some　傾向、性質、状態を表す。（名）

（例）　⠞⠗⠥⠃⠇⠑⠤⠱⠕⠍⠑　⠇⠕⠝⠑⠤⠱⠕⠍⠑

trouble-some　lone-some

（46）　-tion　状態や動作の結果を表す。（名）

（例）　⠊⠝⠞⠗⠕⠙⠥⠉⠤⠞⠊⠕⠝　⠟⠥⠑⠎⠤⠞⠊⠕⠝

introduc-tion　ques-tion

（47）　-ward（s）　…の方へ。（副）

（例）　⠁⠋⠞⠑⠗⠤⠺⠁⠗⠙⠤⠱　⠃⠁⠉⠅⠤⠺⠁⠗⠙

after-ward（s）　back-ward

（48）　-wise　…のように。（副）

（例）　⠉⠇⠕⠉⠅⠤⠺⠊⠎⠑

clock-wise

（49）　-y　　名詞から形容詞を作る。（形）

（例）　⠸⠽　　⠸⠽

luck-y　　rain-y

８．　点字縮約の解説Ｉ

第２学年からは、アメリカやイギリスで現在普通に用いられている英語点字を学ぶ。第１学年で学んだアルファベットや句読符の外に、点字独特の縮約を、よく出てくる単語や綴り字のグループを表すために用いる。点字縮約は、主として読む速さ、特に黙読の速さを普通の文字を読む速さに近付けるために用いられている。さらに、書く速さは、縮約を用いれば普通の文字を書く速さより断然速くなる。そこで、中学生のうちにその記号や使い方をマスターして高等部の教科書や外国の本を自由に読みこなし、英語を一層正確に速く書くことができるようになろう。

(1)　縮約語（Ｃｏｎｔｒａｃｔｉｏｎｓ）　一マスであらわすもの３４語

（ａ）　アルファベットと同じ形のもの

⠃ ― ｂｕｔ　⠉ ― ｃａｎ　⠙ ― ｄｏ

⠑ ― ｅｖｅｒｙ　⠋ ― ｆｒｏｍ　⠛ ― ｇｏ

⠓ ― ｈａｖｅ　⠚ ― ｊｕｓｔ

⠅ ― ｋｎｏｗｌｅｄｇｅ　⠇ ― ｌｉｋｅ

⠍ ― ｍｏｒｅ　⠝ ― ｎｏｔ　⠏ ― ｐｅｏｐｌｅ

⠟ ― ｑｕｉｔｅ　⠗ ― ｒａｔｈｅｒ（むしろ）

⠎ ― ｓｏ　⠞ ― ｔｈａｔ　⠥ ― ｕｓ

⠧ ― ｖｅｒｙ　⠺ ― ｗｉｌｌ　⠭ ― ｉｔ

⠽ ― ｙｏｕ　⠵ ― ａｓ

（ｂ）　その他の一マスの縮約語

⠯ ― ａｎｄ　⠿ ― ｆｏｒ　⠷ ― ｏｆ

⠮ ― ｔｈｅ　⠾ ― ｗｉｔｈ　⠡ ― ｃｈｉｌｄ

⠩ ― ｓｈａｌｌ　⠹ ― ｔｈｉｓ　⠱ ― ｗｈｉｃｈ

⠳ ― ｏｕｔ　⠹ ― ｓｔｉｌｌ

(2)　使い方

これら３４語は、単語全体を一マスの記号で表す縮約語である。一マスであっても文字ではなく単語であるから、前後を一マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

（ａ）　コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

（ｂ）　大文字符、イタリック符など点字独特の記号とは続ける。

（使い方の例）

⠠⠞⠕⠍⠂　⠠⠺⠓⠊⠉⠓　⠙⠕　⠽⠕⠥　⠇⠊⠅⠑　⠃⠑⠞⠞⠑⠗⠂　⠠⠞⠓⠊⠎　⠕⠗　⠠⠞⠓⠁⠞⠦
⠠⠃⠊⠇⠇⠂　⠠⠊　⠇⠊⠅⠑　⠠⠞⠓⠊⠎　⠃⠑⠞⠞⠑⠗⠲　⠠⠊⠞⠄⠎　⠧⠑⠗⠽
⠝⠊⠉⠑⠲

→　Ｔｏｍ：Ｗｈｉｃｈ　ｄｏ　ｙｏｕ　ｌｉｋｅ　ｂｅｔｔｅｒ，
　　ｔｈｉｓ　ｏｒ　ｔｈａｔ？
　　Ｂｉｌｌ：Ｉ　ｌｉｋｅ　ｔｈｉｓ　ｂｅｔｔｅｒ．　Ｉｔ’ｓ
　　ｖｅｒｙ　ｎｉｃｅ．

（トム：あなたは、これとあれと、どちらが好きですか。
ビル：このほうが好きです。とてもすてきだよ。）

⠠⠓⠑　⠠⠉⠁⠝⠄⠞　⠛⠕　⠕⠥⠞⠲　⠠⠃⠥⠞　⠺⠑　⠺⠊⠇⠇　⠛⠕　⠕⠥⠞⠲

→　Ｈｅ　ｃａｎ’ｔ　ｇｏ　ｏｕｔ．　Ｂｕｔ　ｗｅ　ｗｉｌｌ　ｇｏ　ｏｕｔ．

（彼は、外出できません。でも、ぼくたちは、外出します。）

⠠⠺⠓⠁⠞⠫　⠠⠊　⠙⠕⠫

→　Ｗｈａｔ　ｓｈａｌｌ　Ｉ　ｄｏ？

（どうしようか。）

⠠⠽⠕⠥　⠉⠁⠝　⠛⠕　⠺⠊⠞⠓　⠥⠎⠲

→　Ｙｏｕ　ｃａｎ　ｇｏ　ｗｉｔｈ　ｕｓ．

（あなたは、私たちといっしょに行けます。）

⠠⠠⠽⠕⠥⠄⠗⠑　⠝⠕⠞　⠁⠎　⠃⠊⠛　⠁⠎　⠞⠓⠁⠞　⠃⠕⠽⠲⠠⠠

→　“Ｙｏｕ’ｒｅ　ｎｏｔ　ａｓ　ｂｉｇ　ａｓ　ｔｈａｔ　ｂｏｙ．”

（君は、あの男の子ほどそんなに大きくはない。）

⠓⠑ ⠏⠇⠁⠽⠎ ⠛⠕⠲

→ Ｈｅ　ｐｌａｙｓ　ｇｏ．
（彼は囲碁をします。）

⠮ ⠄ ⠂ ⠄ ⠍⠁⠝ ⠺⠁⠝⠞⠎ ⠞⠕ ⠄ ⠄ ⠓⠁⠧⠑ ⠁
⠉⠁⠞ ⠺⠊⠞⠓ ⠃⠇⠁⠉⠅ ⠑⠽⠑⠎⠲

→ Ｔｈｅ　ｃｈｉｌｄ　ｏｆ　ｔｈｅ　ｍａｎ　ｗａｎｔｓ　ｔｏ
ｈａｖｅ　ａ　ｃａｔ　ｗｉｔｈ　ｂｌａｃｋ　ｅｙｅｓ．
（その男の人の子供は、黒い目の猫を、飼いたがっている。）

⠁ ⠝⠁⠞⠊⠕⠝ ⠊⠎ ⠂ ⠄ ⠄ ⠋⠕⠗ ⠮ ⠏⠑⠕⠏⠇⠑⠄⠎
→ Ａ　ｎａｔｉｏｎ　ｉｓ　ｆｏｒ　ｔｈｅ　ｐｅｏｐｌｅ’ｓ
ｈａｐｐｉｎｅｓｓ．
（国家は人々の幸福のためにあるのです。）

（使ってはならない例）
⠓⠑ ⠇⠊⠅⠑⠎ ⠁⠏⠏⠇⠑⠎
→（Ｈｅ　ｌｉｋｅｓ　ａｐｐｌｅｓ．）
のｌｉｋｅｓをｌｓと書いてはならない。また、⠓⠑ ⠛⠕⠑⠎ ⠕⠥⠞
（Ｈｅ　ｇｏｅｓ　ｏｕｔ．）のｇｏｅｓをｇｅｓと書いてはならない。

⠃⠊⠇⠇ ⠙⠕⠑⠎ ⠝⠕⠞ ⠇⠊⠅⠑ ⠮ ⠏⠑⠕⠏⠇⠑⠄⠎
（Ｂｉｌｌ　ｄｏｅｓ　ｎｏｔ　ｌｉｋｅ　ｔｈｅ　ｐｅｏｐｌｅｓ．）
のｄｏｅｓをｄｅｓと書いてはならない。また、ｐｅｏｐｌｅｓをｐｓ
と書いてはならない。

(3)　学習のヒント

（ａ）　アルファベットと同じ形のもののうち、ｉとａｓ以外は頭文字で表している。またａ、ｉ、ｏはそれだけで単語になるから縮約には用いない。アルファベットと同じ形の縮約語は、英米でなじみの薄い固有名詞や単語にも使われる。

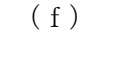
（ｂ）　ｄｏ、ｇｏ、ｌｉｋｅ、ｐｅｏｐｌｅなどの縮約語は、一マスで語全体を表すから、活用語尾や複数の－ｓ、－ｅｓが付く場合には、用いることができない。

（ｃ）　□⠄□や□⠂□などが、単語の一部として用いられる場合については、後に学ぶ。

（ｄ）　“ｂ　ｂｕｔ、ｂｕｔ　ｂ”などと、唱えて記憶するのもよい。

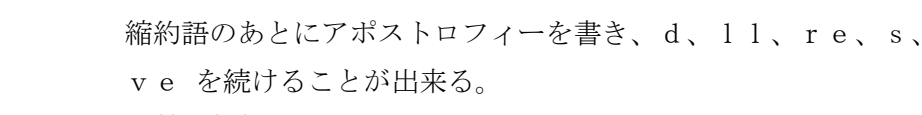
（ｅ）　従来は、 ａ及びａｎｄ、ｆｏｒ、ｏｆ、ｔｈｅ、ｗｉｔｈの縮約語は連続する場合、互いに続け合っていたが、ＵＥＢ（統一英語点字）では続け合わない。

（ｆ）　従来、ｃｈｉｌｄ、ｓｈａｌｌ、ｔｈｉｓ、ｗｈｉｃｈ、ｏｕｔ、ｓｔｉｌｌは、いくつかの例外を除いて、縮約語の形のまま、アポストロフィーを続けることは出来なかったが、ＵＥＢ（統一英語点字）では、縮約語のあとにアポストロフィーを書き、ｄ、ｌｌ、ｒｅ、ｓ、ｔ、ｖｅ を続けることが出来る。



Ｔｈｉｓ’ｌｌ

（ｇ）　ｄｏ、ｓｏの縮約語は音階をあらわす時にも使える。



→　Ｓｏ ｉｓ ｔｈｅ ｆｉｆｔｈ ｎｏｔｅ ｉｎ ａ ｍｕｓｉｃａｌ ｓｃａｌｅ.

９．　点字縮約の解説Ⅱ

(1)　縮約語（Ｃｏｎｔｒａｃｔｉｏｎｓ）　二マスであらわすもの３３語

（ａ）　５の点と組み合わせるもの

⠙ ― ｄａｙ　⠑ ― ｅｖｅｒ　⠋ ― ｆａｔｈｅｒ

⠓ ― ｈｅｒｅ　⠅ ― ｋｎｏｗ

⠇ ― ｌｏｒｄ（君主）　⠍ ― ｍｏｔｈｅｒ

⠝ ― ｎａｍｅ　⠕ ― ｏｎｅ

⠏ ― ｐａｒｔ　⠟ ― ｑｕｅｓｔｉｏｎ

⠗ ― ｒｉｇｈｔ　⠎ ― ｓｏｍｅ　⠞ ― ｔｉｍｅ

⠥ ― ｕｎｄｅｒ　⠺ ― ｗｏｒｋ　⠽ ― ｙｏｕｎｇ

⠮ ― ｔｈｅｒｅ　⠉ ― ｃｈａｒａｃｔｅｒ

⠹ ― ｔｈｒｏｕｇｈ　⠱ ― ｗｈｅｒｅ

⠳ ― ｏｕｇｈｔ（ｏｕｇｈｔ　ｔｏ～　…すべきである）

（ｂ）　４・５の点と組み合わせるもの

⠩ ― ｕｐｏｎ（ｏｎと同じ意味）　⠺ ― ｗｏｒｄ

⠮ ― ｔｈｅｓｅ　⠹ ― ｔｈｏｓｅ

⠱ ― ｗｈｏｓｅ

（ｃ）　４・５・６の点と組み合わせるもの

⠉ ― ｃａｎｎｏｔ　⠓ ― ｈａｄ　⠍ ― ｍａｎｙ

⠎ ― ｓｐｉｒｉｔ（精神）　⠺ ― ｗｏｒｌｄ

⠮ ― ｔｈｅｉｒ

(2)　使い方

これらの３３語は、前置点と頭文字との二マスで表した縮約語である。

これらはＩｎｉｔｉａｌ－ｌｅｔｔｅｒ　ｃｏｎｔｒａｃｔｉｏｎｓ（語頭縮約）と呼ばれる。これらの前後は、一マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

（ａ）　コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

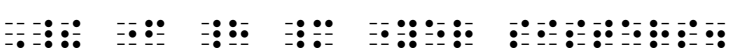
（ｂ）　大文字符、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

（ｃ）　これらが語の一部であっても、元の発音を残し、意味が不明瞭にならない場合は、これらを他の綴りと続けて用いることができる。

（使い方の例）

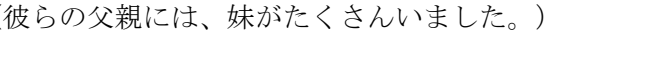
→ Ｄｏ　ｙｏｕ　ｋｎｏｗ　ｔｈｅ　ｎａｍｅ　ｏｆ　ｍｙ　ｍｏｔｈｅｒ？

（あなたは、ぼくの母の名前を知っていますか。）



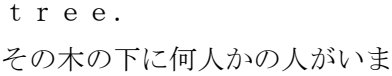
→ Ｔｈｅｉｒ　ｆａｔｈｅｒ　ｈａｄ　ｍａｎｙ　ｙｏｕｎｇｅｒ　ｓｉｓｔｅｒｓ．

（彼らの父親には、妹がたくさんいました。）



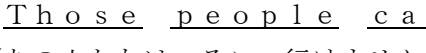
→ Ｔｈｅｒｅ　ａｒｅ　ｓｏｍｅ　ｐｅｏｐｌｅ　ｕｎｄｅｒ　ｔｈｅ　ｔｒｅｅ．

（その木の下に何人かの人がいます。）



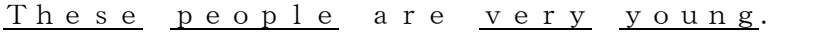
→ Ｔｈｏｓｅ　ｐｅｏｐｌｅ　ｃａｎｎｏｔ　ｇｏ　ｔｈｅｒｅ．

（あの人たちは、そこへ行けません。）



→ Ｔｈｅｓｅ　ｐｅｏｐｌｅ　ａｒｅ　ｖｅｒｙ　ｙｏｕｎｇ．

（この人たちは、とても若い。）



→ Ｍａｎｙ　ｂｏｙｓ　ａｎｄ　ｇｉｒｌｓ　ａｒｅ　ｈｅｒｅ　ａｎｄ　ｔｈｅｒｅ．

（たくさんの男の子や女の子があちこちにいます。）

→ Ａｌｌ ｒｉｇｈｔ, ｍｏｔｈｅｒ！
（いいよ、お母さん。）

→ Ｗｈｅｒｅ ｄｏ ｙｏｕ ｃｏｍｅ ｆｒｏｍ？ Ｗｈｅｒｅ ｄｏ ｙｏｕ ｇｏ？
（どこから来て、どこへ行くの。）

→ Ｏｎｃｅ ｕｐｏｎ ａ ｔｉｍｅ, ｔｈｅｒｅ ｗａｓ ａｎ ｏｌｄ ｍａｎ.
（むかし、むかし、ひとりのおじいさんがいました。）

→ Ｗｈｏｓｅ ｃａｒ ｉｓ ｔｈａｔ ｂｌｕｅ ｏｎｅ？
（あの青いのは、だれの車ですか。）

→ Ｔｈｅ ｄｏｇ ｒａｎ ｔｈｒｏｕｇｈ ｔｈｅ ｗｏｏｄｓ.
（その犬は、森を走り抜けた。）

→ Ｉ ｃａｎｎｏｔ ｗｏｒｋ ｔｈｅｒｅ.
（私は、そこでは働けない。）

→ Ｈａｖｅ ｙｏｕ ｅｖｅｒ ｓｅｅｎ ｔｈｅ ｙｏｕｎｇ ｍａｎ？
（今までにその青年に会ったことがありますか。）

→ Ｍａｙ Ｉ ａｓｋ ｙｏｕ ａ ｑｕｅｓｔｉｏｎ？
（質問してもいいですか。）

⠠⠁⠎⠊⠁ ⠊⠎ ⠁ ⠏⠁⠗⠞ ⠕⠋ ⠞⠓⠑ ⠺⠕⠗⠇⠙.
→ Ａｓｉａ ｉｓ ａ ｐａｒｔ ｏｆ ｔｈｅ ｗｏｒｌｄ.
（アジアは、世界の一部です。）

⠎⠥⠝⠙⠁⠽ → Ｓｕｎｄａｙ

⠑⠧⠑⠗⠽⠃⠕⠙⠽ → ｅｖｅｒｙｂｏｄｙ

⠎⠕⠍⠑⠕⠝⠑ → ｓｏｍｅｏｎｅ

⠏⠁⠗⠞⠽ → ｐａｒｔｙ

⠏⠁⠗⠞⠤⠞⠊⠍⠑ → ｐａｒｔ-ｔｉｍｅ

⠟⠥⠑⠎⠞⠊⠕⠝⠎ → ｑｕｅｓｔｉｏｎｓ

⠎⠕⠍⠑⠞⠊⠍⠑⠎ → ｓｏｍｅｔｉｍｅｓ

⠺⠕⠗⠅⠎ → ｗｏｒｋｓ

⠉⠓⠁⠗⠁⠉⠞⠑⠗⠎ → ｃｈａｒａｃｔｅｒｓ

⠺⠕⠗⠙⠎ → ｗｏｒｄｓ

⠎⠏⠊⠗⠊⠞⠎ → ｓｐｉｒｉｔｓ

⠞⠓⠑⠊⠗⠎ → ｔｈｅｉｒｓ

⠓⠁⠙⠝⠄⠞ → ｈａｄｎ’ｔ

⠝⠑⠧⠑⠗ → ｎｅｖｅｒ

（使ってはならない例）
ｃｏｕｐｏｎ （割引券）を ⠉⠕⠥⠏⠕⠝ と書いてはならない。
（※意味に注意　ｕｐｏｎの意味が失われる場合は使えない。ｔｈｅｓｅ、ｔｈｏｓｅ、ｗｈｏｓｅ、ｔｈｅｒｅ も同じ）

ｓｈａｄｏｗを ⠱⠓⠁⠙⠕⠺ と書いてはならない。（⠱⠓⠁⠙⠕⠺ のように
１マスの縮約部を優先させて書く。詳しくは、解説のⅢを参照すること）
ｂｅｌｉｅｖｅｒ （信者）は ⠃⠑⠇ ⠊⠑⠧⠑⠗ と書いてはならない。
（ｅｖｅｒの最初のｅにアクセントが来ない場合や､前にｅやｉが来る場合には用いることが出来ない）
ａｄｈｅｒｅｄ （くっつくの過去形）を ⠁⠙⠓⠑⠗⠑⠙ と書いてはならない。
ｎａｍｅと ｈｅｒｅ は一音節でない場合と、あとに、ｄ、ｎ、ｒ が続く場合は、ｅｄ、ｅｎ、ｅｒ の縮約部を優先させて書く。詳しくは、解説のⅢを参照すること）よって、ｅｎａｍｅｌ［ｉｎǽｍｅｌ］（ほうろう）を
⠑⠝⠁⠍⠑⠇と書いてはならない。
ｏｎｅ は ｏｎｅｙ で終わる語や、ｈｏｎｅｓｔ（正直な）や
ｍｏｎｅｔａｒｙ（通貨の）及びこれらの派生語では使えるが、ｏｎｅが一音節でない場合や、前にｏが来る場合には使えない。さらに、あとに、ｄ、ｎ、ｒ が続く場合は、ｅｄ、ｅｎ、ｅｒの縮約部を優先させて書く。詳しくは、解説のⅢを参照すること。これらの理由で、ｐｉｏｎｅｅｒ （開拓者）を
⠏⠊⠕⠝⠑⠑⠗ 、ｓｏｏｎｅｒ （ｓｏｏｎの比較級）は ⠎⠕⠕⠝⠑⠗ 、
ｃｕｓｈｉｏｎｅｄ（クッションのついた）を ⠉⠥⠩⠓⠊⠕⠝⠑⠙ と書いてはならない。
ｂｌｏｓｓｏｍｅｄ（開花するの過去形）を ⠃⠇⠕⠎⠎⠕⠍⠑⠙ と書いてはならない。（ｓｏｍｅ が ｂｌｏｓｓｏｍ の音節を形成していないため）
ｃｅｎｔｉｍｅｔｅｒ［ｓéｎｔｉｍｉ：ｔə *r*］を ⠉⠑⠝⠞⠊⠍⠑⠞⠑⠗と書いてはならない。（※発音に注意　ｔｉｍｅ［ｔａｉｍ］と発音されない場合は使えない）
ｂｏｕｎｄｅｒ［ｂáｕｎｄə *r*］（成り上がり者）を⠃⠕⠥⠝⠙⠑⠗と書いてはならない。（※ｕｎｄｅｒ の前に ａ、ｏが来る時と、ｕｎ が接頭辞として用いられる場合は使えない）

(3)　学習のヒント

（ａ）　縮約語としての使い方は、二マスも一マスの場合と同じである。

（ｂ）　⠝⠁⠍⠑⠙（ｎａｍｅｄ）、⠎⠕⠍⠑⠞⠊⠍⠑⠎（ｓｏｍｅｔｉｍｅｓ）などは、もとの発音を残し、意味も明瞭だから用いてもよいが、⠑⠝⠁⠍⠑⠇
（ｅｎａｍｅｌ）、⠉⠑⠝⠞⠊⠍⠑⠞⠑⠗（ｃｅｎｔｉｍｅｔｅｒ）などは、発音も異なり、音節や語の構成要素の区切り目を越えるので、縮約語を用いることはできない。

（ｃ）　「５の点にｄ は、ｄａｙ」などと友達と交替で当て合うのもよい。

（ｄ）　意味と関連させて記憶するのもよい。

(参考例)

⠓⠑⠗⠑（ｈｅｒｅ）　⠮⠑⠗⠑（ｔｈｅｒｅ）　⠺⠓⠑⠗⠑（ｗｈｅｒｅ）

⠋⠁⠞⠓⠑⠗（ｆａｔｈｅｒ）　⠍⠕⠞⠓⠑⠗（ｍｏｔｈｅｒ）

⠍⠁⠝⠽（ｍａｎｙ）　⠍⠕⠗⠑（ｍｏｒｅ）

⠉⠁⠝（ｃａｎ）　⠉⠁⠝⠝⠕⠞（ｃａｎｎｏｔ）

⠓⠁⠧⠑（ｈａｖｅ）　⠓⠁⠙（ｈａｄ）　⠓⠁⠙⠝⠄⠞（ｈａｄｎ’ｔ）

⠅⠝⠕⠺（ｋｎｏｗ）　⠅⠝⠕⠺⠝（ｋｎｏｗｎ）　⠅⠝⠕⠺⠇⠑⠙⠛⠑（ｋｎｏｗｌｅｄｇｅ）

⠮⠊⠎（ｔｈｉｓ）　⠮⠑⠎⠑（ｔｈｅｓｅ）

⠮⠁⠞（ｔｈａｔ）　⠮⠕⠎⠑（ｔｈｏｓｅ）

⠮⠊⠗（ｔｈｅｉｒ）　⠮⠊⠗⠎（ｔｈｅｉｒｓ）

１０．　点字縮約の解説Ⅲ　縮約部

(1)　縮約部（Ｇｒｏｕｐｓｉｇｎｓ）　１マスであらわすもの１９個

（ａ）　一マスの縮約部の中で、他に優先して用いられるもの

⠯ ― ａｎｄ　⠿ ― ｆｏｒ　⠷ ― ｏｆ　⠮ ― ｔｈｅ

⠾ ― ｗｉｔｈ

（ｂ）　いくつかの例外を除き、複合語の要素をまたがない限り、単語のどの部分にも用いるもの

⠡ ― ｃｈ　⠣ ― ｇｈ　⠩ ― ｓｈ　⠹ ― ｔｈ

⠱ ― ｗｈ　⠫ ― ｅｄ　⠻ ― ｅｒ　⠳ ― ｏｕ

⠪ ― ｏｗ　⠌ ― ｓｔ　⠜ ― ａｒ　□⠢□ ― ｅｎ

□⠔□ ― ｉｎ

（ｃ）　単語のはじめの部分には用いないもの

⠬ ― ｉｎｇ

(2)　縮約部（Ｇｒｏｕｐｓｉｇｎｓ）　２マスであらわすもの１２個

（ａ）　４・６の点と組み合わせるもの

⠰⠿ ― ｏｕｎｄ　⠰⠯ ― ａｎｃｅ　⠰⠹ ― ｓｉｏｎ

⠰⠾ ― ｌｅｓｓ　⠰⠷ ― ｏｕｎｔ

（ｂ）　５・６の点と組み合わせるもの

⠲⠯ ― ｅｎｃｅ　⠲⠿ ― ｏｎｇ　⠲⠮ ― ｆｕｌ

⠲⠹ ― ｔｉｏｎ　⠲⠾ ― ｎｅｓｓ　⠲⠷ ― ｍｅｎｔ

⠲⠽ ― ｉｔｙ

(3)　使い方

これら３１の縮約部は、単語の中のそれに対応する綴り字を、一マスか二マスの記号に縮めて表すために用いられる。これらは、複合語の各要素の間を

またいでは用いられない。また、同じ場所で二つ以上の縮約部の使用が可能な場合には、マス数を節約できる方が選ばれる。マス数が同じであれば一マスの縮約部が優先される。中でも、ａｎｄ、ｆｏｒ、ｏｆ、ｔｈｅ、ｗｉｔｈ の縮約部は、他に優先して用いる。（２）の縮約部は語尾縮約部（Ｆｉｎａｌ－ｌｅｔｔｅｒ　ｃｏｎｔｒａｃｔｉｏｎｓ）と呼ばれる。これらの一マスと二マスの縮約部は、一部の例外を除いて、原則として句読符や点字独特の記号と続けて用いる。これらの使い方の次のとおりである。

（ａ）　一マスの縮約部の場合

ａｎｄ、ｆｏｒ、ｏｆ、ｔｈｅ、ｗｉｔｈの縮約部は、単語のはじめの部分、単語の中の部分及び単語の後ろの部分のどの部分にも用いることができる。また、二つ以上の縮約部が用いられる可能性があるときは、節約できるマス数が同じ場合、これらが優先して用いられる。これら五つの縮約語としての用法は、既に点字縮約の解説Ｉで説明されている。これらは、一マスの縮約語として用いられる場合も、一マスの縮約部として用いられる場合も、これらに対応する綴り字は、全く同じであるが、用法は異なるので、混同しないように注意する必要がある。

(使い方の例)

⠁⠝⠙⠗⠑⠺　―　Ａｎｄｒｅｗ　　⠉⠁⠝⠙⠽　―　ｃａｎｄｙ

⠓⠁⠝⠙　―　ｈａｎｄ　　⠋⠕⠗⠍　―　ｆｏｒｍ（型）

⠑⠋⠋⠕⠗⠞　―　ｅｆｆｏｒｔ　　⠕⠋⠋⠊⠉⠑　―　ｏｆｆｉｃｅ

⠎⠕⠋⠞　―　ｓｏｆｔ　　⠗⠕⠕⠋　―　ｒｏｏｆ（屋根）

⠏⠗⠕⠋⠑⠎⠎⠕⠗　―　ｐｒｏｆｅｓｓｏｒ　　⠞⠓⠑⠝　―　ｔｈｅｎ

⠕⠞⠓⠑⠗　―　ｏｔｈｅｒ　　⠺⠊⠞⠓⠕⠥⠞　―　ｗｉｔｈｏｕｔ

(使ってはならない例)

⠎⠕⠥⠞⠓⠑⠁⠎⠞（ｓｏｕｔｈｅａｓｔ）は複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで⠎⠕⠥⠞⠓⠑⠁⠎⠞とは書けない。

（ｂ）　⠱　⠳　⠹　⠽　⠵　⠻　□⠱□　□⠹□の八つは、これらで表される縮約語と縮約部の用法は異なる。また、□⠻□以外の七つは、短縮される綴り字の範囲も、縮約語と縮約部で異なっている。ｃｈ、ｇｈ、ｓｈ、ｔｈ、ｗｈ、ｅｄ、ｅｒ、ｏｕ、ｏｗ、ｓｔ、ａｒ、ｅｎ、ｉｎの縮約部は単語のはじめの部分、単語の中の部分及び単語の後ろの部分のどの部分にも、複合語の要素をまたがない限り、用いることができる。ただし、ｃｈ、ｇｈ、ｓｈ、ｔｈ、ｗｈ はｈが発音される時には使えない。ｔｈ、ｓｔは序数とともに使えない。

ｅｎ、ｉｎ の縮約部と縮約部などの下がり記号が二つ以上続く場合には、前か後ろに１の点か４の点を含む句読符もしくは語と続いていない限り、ｅｎ、ｉｎ を表す縮約部は用いない。

（使い方の例）

⠱⠱⠹⠱　→　ｃｈｕｒｃｈ

⠱⠱⠹⠱⠱⠱⠱⠱　→　ｃｈｉｌｄｌｉｋｅ（子供らしい）

⠱⠱⠱　→　ｇｈｏｓｔ（幽霊）　⠱⠱⠹⠱⠱　→　ｅｉｇｈｔ

⠱⠱　→　ｓｈｅ　⠹⠱⠱　→　ｗａｓｈ

⠱⠱⠱⠹⠱⠱⠱　→　ｆｉｓｈｅｒｍａｎ（漁師）

⠱⠹⠱⠱　→　ｔｈｒｅｅ　⠹⠱⠱⠱　→　ｔｅｅｔｈ（歯の複数形）

⠱⠱⠹　→　ｗｈａｔ　⠱⠱　→　ｗｈｏ

⠱⠱⠱⠱⠱⠹⠱　→　ｅｄｕｃａｔｅ（教育する）

⠱⠱⠱⠱　→　ｌｉｋｅｄ　⠱⠱⠱⠹　→　ｅｄｉｔｉｏｎ

⠱⠱⠹⠱⠹　→　ｃａｔｃｈｅｒ

⠹⠹⠱　→　ｔｏｕｃｈ　⠹⠹　→　ｏｕｒ

⠱⠱　→　ｏｗｎ　⠱⠱⠱　→　ｈｏｗ

⠃⠑⠌⠞ → ｂｅｓｔ　⠎⠊⠌⠞⠑⠗ → ｓｉｓｔｅｒ

⠌⠞⠁⠗⠞ → ｓｔａｒｔ　⠍⠊⠌⠞⠁⠅⠑ → ｍｉｓｔａｋｅ

⠁⠗⠍ → ａｒｍ　⠁⠗⠑⠝⠄⠞ → ａｒｅｎ’ｔ

⠺⠑⠗⠑⠝⠄⠞ → ｗｅｒｅｎ’ｔ　⠓⠁⠧⠑⠝⠄⠞ → ｈａｖｅｎ’ｔ

⠑⠝⠛⠇⠊⠌⠓ → Ｅｎｇｌｉｓｈ

⠕⠋⠞⠑⠝ → ｏｆｔｅｎ　⠊⠝⠅ → ｉｎｋ

⠞⠓⠊⠝⠅ → ｔｈｉｎｋ

(使ってはならない例)

ｍｉｓｈａｎｄｌｅ（まずい処理をする）　→ ⠍⠊⠌⠓⠁⠝⠙⠇⠑
(ｈを発音するので、ｓｈは使えない)

⠇⠊⠛⠓⠞⠓⠕⠥⠎⠑ （ｌｉｇｈｔｈｏｕｓｅ）は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、⠇⠊⠛⠓⠞⠓⠕⠥⠎⠑とは書けない。

⠛⠗⠁⠎⠎⠓⠕⠏⠏⠑⠗ （ｇｒａｓｓｈｏｐｐｅｒ）
（ｇｒａｓｓｈｏｐｐｅｒ）（きりぎりす）は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、⠛⠗⠁⠎⠎⠓⠕⠏⠏⠑⠗とは書けない。

⠗⠁⠺⠓⠊⠙⠑ （ｒａｗｈｉｄｅ）（生皮）も、同じく⠗⠁⠺⠓⠊⠙⠑とは書けない。

⠌⠞⠁⠞⠑⠗⠕⠕⠍ （ｓｔａｔｅｒｏｏｍ）（ｓｔａｔｅ‐ｒｏｏｍ）
(特等室）は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、
⠌⠞⠁⠞⠑⠗⠕⠕⠍ とは書けない。

（ｃ）　ｉｎｇを表す縮約部は、単語のはじめには用いない。
(使い方の例)
⠌⠞⠁⠝⠙ → ｓｔａｎｄｉｎｇ　⠎⠊⠝ → ｓｉｎｇｉｎｇ

（使ってはならない例）

⠍⠕⠗⠝ （※morn で行替えする場合）

⠍⠕ → ｍｏｒｎｉｎｇ

（ｄ） 二マスの縮約部の場合

二マスの短縮部は、単語のはじめには用いない。単語の中の部分、単語の後ろの部分に用いる。ただし、ハイフンやアポストロフィーの後ろ及び２行にまたがる単語の次の行のはじめには用いない。また、二マスの縮約部は、縮約語として語全体を表すために用いることは決してない。

（使い方の例）

⠗⠝⠙ → ｒｏｕｎｄ ⠎⠝⠙ → ｓｏｕｎｄ

⠙⠝⠉ → ｄａｎｃｅ

⠁⠎⠎⠊⠎⠞⠁⠝⠉ → ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ（手伝い）

⠙⠝⠉⠑⠙ → ｄａｎｃｅｄ ⠙⠝⠉⠑⠗ → ｄａｎｃｅｒ

⠞⠑⠇⠑⠧⠊⠎⠊⠕⠝ → ｔｅｌｅｖｉｓｉｏｎ （テレビ）

⠥⠎⠑⠇⠑⠎⠎ → ｕｓｅｌｅｓｓ（役に立たない）

⠍⠕⠥⠝⠞⠁⠊⠝ → ｍｏｕｎｔａｉｎ

⠉⠕⠥⠝⠞⠗⠽ → ｃｏｕｎｔｒｙ

⠎⠉⠊⠑⠝⠉⠑ → ｓｃｉｅｎｃｅ

⠇⠕⠝⠛⠑⠗ → ｌｏｎｇｅｒ ⠎⠕⠝⠛ → ｓｏｎｇ

⠺⠕⠝⠙⠑⠗⠋⠥⠇ → ｗｏｎｄｅｒｆｕｌ （すばらしい）

⠋⠁⠊⠞⠓⠋⠥⠇⠇⠽ → ｆａｉｔｈｆｕｌｌｙ（忠実に）

⠎⠑⠉⠞⠊⠕⠝ → ｓｅｃｔｉｏｎ

⠥⠎⠑⠋⠥⠇⠝⠑⠎⠎ → ｕｓｅｆｕｌｎｅｓｓ（有用）

⠍⠕⠍⠑⠝⠞ → ｍｏｍｅｎｔ

（使ってはならない例）
⠁⠝⠉⠑⠎⠞⠕⠗（ａｎｃｅｓｔｏｒ　先祖）のａｎｃｅは、語のはじめだから、⠁⠝⠉⠑とは書けない。

⠇⠑⠎⠎⠕⠝（ｌｅｓｓｏｎ）も⠇⠑⠎⠎とは書けない。

⠋⠥⠇⠋⠊⠇⠇（ｆｕｌｆｉｌｌ　果たす）も、同じく⠋⠥⠇⠋とは書けない。

⠛⠗⠑⠽⠄⠕⠥⠝⠙（ｇｒｅｙ’ｏｕｎｄ）（グレーハウンド種の）のｏｕｎｄは、アポストロフィーの後だから、⠛⠗⠑⠽⠄⠕⠥⠝とは書けない。

⠉⠕⠍⠤⠏⠇⠊⠤⠍⠑⠝⠞（ｃｏｍ‐ｐｌｉ‐ｍｅｎｔ）（おせじ）のｍｅｎｔは、ハイフンの後であるから、⠉⠕⠍⠤⠏⠇⠊⠤⠍⠑⠝⠞とは書けない。

⠋⠥⠝⠙⠁　（※ｆｕｎｄａで行替えする場合）
⠋⠥⠝⠙⠁⠍⠑⠝⠞⠁⠇ → ｆｕｎｄａｍｅｎｔａｌ（根本的な）

⠇⠑⠎⠎（ｌｅｓｓ）（より少ない）は、独立した単語であるから、⠇⠑⠎⠎とは書けない。

(4)　学習のヒント

（ａ）⠁ ⠃ ⠉ ⠙ ⠑ □⠋□の六つは、単語の一部を表す縮約部と、語全体を表す縮約語の形が同じであるが、用法は異なる。

（ｂ）⠁ ⠃ ⠉ ⠙ ⠑ ⠋ □⠋□の七つは、これらが表す単語の最初の２文字と、縮約部が表す綴り字とは同じであるが、縮約語と縮約部の用法は、異なっている。

（ｃ）ｉｎｇを表す一マスの縮約部は、二マスの縮約部と用法が似ている。
二マスの短縮部が語のはじめに用いられないのは、イタリック符、又は文字符などと混同されるのを避けるためである。また、ハイフンの後ろに、これらが用いられないのも、同じ理由によるものである。

（ｄ）　二マスの縮約部は、一連の綴り字（多くは接尾辞）の最後の文字に２種類の点を前置したものである。

（ｅ）　縮約部は、読み方から先に学ぼう。書き方を正確に学ぶためには、語源や接頭辞、接尾辞、又は音節の区切り方を学ぶ必要があるからである。

１１．　点字縮約の解説Ⅳ　省略形１

(1)　省略形（Ｓｈｏｒｔｆｏｒｍｓ）

（ａ）　最初の二マスを残して後ろを省略する場合

⠁⠃ ― ａｂｏｕｔ

⠁⠉ ― ａｃｃｏｒｄｉｎｇ
（ａｃｃｏｒｄｉｎｇ　ｔｏ～ ）

⠁⠋ ― ａｆｔｅｒ　⠁⠛ ― ａｇａｉｎ　⠁⠇ ― ａｌｓｏ

⠃⠉ ― ｂｅｃａｕｓｅ　⠃⠋ ― ｂｅｆｏｒｅ

⠃⠓ ― ｂｅｈｉｎｄ

⠃⠇ ― ｂｅｌｏｗ

⠃⠝ ― ｂｅｎｅａｔｈ（…の下に）

⠃⠊ ― ｂｅｓｉｄｅ

⠃⠞ ― ｂｅｔｗｅｅｎ

⠃⠽ ― ｂｅｙｏｎｄ

⠃⠇ ― ｂｌｉｎｄ　⠑⠊ ― ｅｉｔｈｅｒ

⠋⠗ ― ｆｒｉｅｎｄ

（ｂ）　骨組みだけを残して、母音などを省略する場合

⠉⠓ ― ｃｈｉｌｄｒｅｎ　⠉⠙ ― ｃｏｕｌｄ

⠋⠌ ― ｆｉｒｓｔ　⠛⠙ ― ｇｏｏｄ

⠓⠍ ― ｈｉｍ　⠊⠞ ― ｉｔｓ

⠇ ― ｌｅｔｔｅｒ　⠇ ― ｌｉｔｔｌｅ

⠍ ― ｍｕｃｈ　⠍ ― ｍｕｓｔ

⠏ ― ｐａｉｄ　⠏ ― ｑｕｉｃｋ

⠎ ― ｓａｉｄ　⠎ ― ｓｈｏｕｌｄ

⠎ ― ｓｕｃｈ　⠞ ― ｔｏｄａｙ

⠞ ― ｔｏｍｏｒｒｏｗ　⠞ ― ｔｏｎｉｇｈｔ

⠺ ― ｗｏｕｌｄ　⠽ ― ｙｏｕｒ

⠁⠃⠁ ― ａｂｏｖｅ　⠁⠋⠁ ― ａｆｔｅｒｎｏｏｎ

⠁⠋⠺ ― ａｆｔｅｒｗａｒｄ

⠁⠛⠁ ― ａｇａｉｎｓｔ

⠃⠗⠁ ― ｂｒａｉｌｌｅ　⠛⠗⠁ ― ｇｒｅａｔ

⠞⠓⠁ ― ｔｏｇｅｔｈｅｒ

(2)　使い方

これら４３語の省略形は、ひと続きに書き、行末でも切らない。また省略形の前後ろは、一マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

（ａ）　コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

（ｂ）　大文字符、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

（ｃ）　これらから派生した語の場合など、発音や意味を不明瞭にしない限り、接頭辞や接尾辞と続けて用いる。その際、その派生語が行末に書ききれないときには、つなぎ目で切り、行末にハイフンを添えるが、省略形そのものは２行に分けてはならない。

(使い方の例)

⠽⠗⠁ ⠋⠗ ⠍ ⠁⠋⠞ ⠓ ⠁⠋⠞⠍

→ Ｙｏｕｒ　ｆｒｉｅｎｄ　ｍｕｓｔ　ｒｕｎ　ａｆｔｅｒ　ｈｉｍ.

（あなたの友達は、彼を追いかけねばならない。）

⠮⠎ ⠮⠎ ⠎ ⠎ ⠮⠎ ⠮⠎ ⠮⠎⠎⠎ ⠮⠎⠎

→ Ｔｈｅｉｒ ｃｈｉｌｄｒｅｎ ｗｉｌｌ ｇｏ ｔｈｅｒｅ ｂｅｆｏｒｅ ｌｕｎｃｈ ｔｏｍｏｒｒｏｗ.

（彼らの子供たちは、明日昼食前にそこへ行くだろう。）

⠮⠎⠎ → ｂｅｓｉｄｅｓ

⠮⠎⠎⠎⠎⠎ → ｂｌｉｎｄｆｏｌｄ（目かくしをする）

⠮⠎⠎⠎ → ｆｒｉｅｎｄｌｙ

⠮⠎⠎⠎⠎ → ｇｏｏｄｂｙｅ

⠮⠎⠎ → ｌｅｔｔｅｒｓ

⠮⠎⠎⠎⠎ → ｍｕｓｔｎ’ｔ

⠮⠎⠎ → ｑｕｉｃｋｅｎ（いそがせる）

⠮⠎⠎⠎ → ｈｅｒｅａｆｔｅｒ（今後）

⠮⠎⠎ → ｙｏｕｒｓ

（使ってはならない例）

ｄｒａｆｔｅｒ［ｄｒǽｆｔｅ *r*］（ｄｒａｆｔ‐ｅｒ）（製図器）を⠮⠎⠎⠎と書いてはならない。（※音節注意）

ｓｈｏｕｌｄｅｒ［ʃóｕｌｄｅ *r*］（肩）を⠮⠎⠎と書いてはならない。（※発音注意）

(3)　学習のヒント

（ａ）　省略形の使い方は、二マスの縮約語と原則的には同じである。

（ｂ）　省略形を読み、その綴りを言ったり、逆に綴りを読みながら省略形を言うなどして記憶するのもよい。

（ｃ）　省略形は数も多く、初歩の読み物では、あまり多く出てこないものもある

ので、教科書に出てきた順序に記憶しておくのもよい方法である。

（d）　意味と関連させて整理するのもよい。

(参考例)

⠃⠇⠊⠝⠙（ｂｌｉｎｄ）　⠃⠗⠁⠊⠇⠇⠑（ｂｒａｉｌｌｅ）

⠉⠓⠊⠇⠙（ｃｈｉｌｄ）　⠉⠓⠊⠇⠙⠗⠑⠝（ｃｈｉｌｄｒｅｎ）

⠉⠁⠝（ｃａｎ）　⠉⠕⠥⠇⠙（ｃｏｕｌｄ）

⠉⠕⠥⠇⠙⠝⠄⠞（ｃｏｕｌｄｎ’ｔ）

⠩⠁⠇⠇（ｓｈａｌｌ）　⠩⠕⠥⠇⠙（ｓｈｏｕｌｄ）

⠩⠕⠥⠇⠙⠝⠄⠞（ｓｈｏｕｌｄｎ’ｔ）

⠺⠊⠇⠇（ｗｉｌｌ）　⠺⠕⠥⠇⠙（ｗｏｕｌｄ）

⠺⠕⠥⠇⠙⠝⠄⠞（ｗｏｕｌｄｎ’ｔ）

⠇⠊⠞⠞⠇⠑（ｌｉｔｔｌｅ）　⠍⠥⠉⠓（ｍｕｃｈ）　⠍⠁⠝⠽（ｍａｎｙ）

⠍⠕⠗⠑（ｍｏｒｅ）

⠁⠋⠞⠑⠗（ａｆｔｅｒ）　⠃⠑⠋⠕⠗⠑（ｂｅｆｏｒｅ）

⠃⠑⠞⠺⠑⠑⠝（ｂｅｔｗｅｅｎ）　⠃⠑⠓⠊⠝⠙（ｂｅｈｉｎｄ）

⠃⠑⠎⠊⠙⠑（ｂｅｓｉｄｅ）

⠃⠑⠇⠕⠺（ｂｅｌｏｗ）　⠃⠑⠝⠑⠁⠞⠓（ｂｅｎｅａｔｈ）　⠥⠝⠙⠑⠗（ｕｎｄｅｒ）

⠎⠁⠽（ｓａｙ）　⠎⠁⠊⠙（ｓａｉｄ）

⠏⠁⠽（ｐａｙ）　⠏⠁⠊⠙（ｐａｉｄ）

⠞⠕⠙⠁⠽（ｔｏｄａｙ）　⠞⠕⠍⠕⠗⠗⠕⠺（ｔｏｍｏｒｒｏｗ）　⠞⠕⠝⠊⠛⠓⠞（ｔｏｎｉｇｈｔ）

１２．　点字縮約の解説Ｖ　省略形２

(1)　省略形（Ｓｈｏｒｔｆｏｒｍｓ）

（ａ）　最初の３マスを残して、後ろを省略する場合

⠁⠉⠗ — ａｃｒｏｓｓ　⠁⠇⠍ — ａｌｍｏｓｔ

⠁⠇⠗ — ａｌｒｅａｄｙ　⠁⠇⠺ — ａｌｗａｙｓ

⠁⠇⠞ — ａｌｔｏｇｅｔｈｅｒ（全く）

⠁⠇⠹ — ａｌｔｈｏｕｇｈ（・・・だけれども）

⠊⠍⠍ — ｉｍｍｅｄｉａｔｅ（直接の）

⠝⠑⠉ — ｎｅｃｅｓｓａｒｙ

⠝⠑⠊ — ｎｅｉｔｈｅｒ（ｎｅｉｔｈｅｒ　Ａ　ｎｏｒ　Ｂ
ＡもＢも～ない）

⠏⠑⠗ — ｐｅｒｈａｐｓ（たぶん）

（ｂ）　…ｓｅｌｆ、…ｓｅｌｖｅｓが付く語の一部を省略する場合

⠍⠽ — ｍｙｓｅｌｆ　⠽⠕ — ｙｏｕｒｓｅｌｆ

⠓⠊ — ｈｉｍｓｅｌｆ　⠓⠑ — ｈｅｒｓｅｌｆ

⠊⠞ — ｉｔｓｅｌｆ　⠕⠑ — ｏｎｅｓｅｌｆ

⠹⠽ — ｔｈｙｓｅｌｆ（汝自身）

⠳⠗⠑⠇⠧⠑⠎ — ｏｕｒｓｅｌｖｅｓ

⠽⠳⠗⠑⠇⠧⠑⠎ — ｙｏｕｒｓｅｌｖｅｓ

⠹⠍⠑⠇⠧⠑⠎ — ｔｈｅｍｓｅｌｖｅｓ

（ｃ）　ｅを省いて現在分詞を作る語の一部を省略する場合

⠉⠑⠉⠑⠊⠧⠑　―　ｃｏｎｃｅｉｖｅ（思いつく）

⠉⠑⠉⠑⠊⠧⠑⠬　―　ｃｏｎｃｅｉｖｉｎｇ

⠙⠑⠉⠑⠊⠧⠑　―　ｄｅｃｅｉｖｅ（だます）

⠙⠑⠉⠑⠊⠧⠑⠬　―　ｄｅｃｅｉｖｉｎｇ

⠙⠑⠉⠇⠁⠗⠑　―　ｄｅｃｌａｒｅ（宣言する）

⠙⠑⠉⠇⠁⠗⠑⠬　―　ｄｅｃｌａｒｉｎｇ

⠏⠑⠗⠉⠑⠊⠧⠑　―　ｐｅｒｃｅｉｖｅ（気がつく）

⠏⠑⠗⠉⠑⠊⠧⠑⠬　―　ｐｅｒｃｅｉｖｉｎｇ

⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠑　―　ｒｅｃｅｉｖｅ

⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠑⠬　―　ｒｅｃｅｉｖｉｎｇ

⠗⠑⠚⠕⠊⠉⠑　―　ｒｅｊｏｉｃｅ（喜ばせる）

⠗⠑⠚⠕⠊⠉⠑⠬　―　ｒｅｊｏｉｃｉｎｇ

(2)　使い方

これら３２語の省略形は、ひと続きに書き、行末でも切らない。また省略形の前後ろは、一マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

（ａ）　コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

（ｂ）　大文字符、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

（ｃ）　これらから派生した語の場合など、発音や意味を不明瞭にしない限り、接頭辞や接尾辞と続けて用いる。その際、その派生語が行末に書ききれないときには、つなぎ目で切り、行末にハイフンを添えるが、省略形そのものは２行に分けてはならない。

（使い方の例）

⠠⠏⠇⠑⠁⠎⠑ ⠓⠑⠇⠏ ⠽⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠋

→ Ｐｌｅａｓｅ ｈｅｌｐ ｙｏｕｒｓｅｌｆ．

（どうぞご自由にお食べください。）

⠊⠄⠍ ⠁⠇⠺⠁⠽⠎ ⠓⠥⠝⠛⠗⠽ ⠑⠧⠑⠗⠽

→ Ｉ’ｍ ａｌｗａｙｓ ｈｕｎｇｒｙ ｅｖｅｒｙ ａｆｔｅｒｎｏｏｎ.

（私は、いつも午後は空腹です。）

(3) 学習のヒント

（ａ） 省略語の使い方は、二マスの短縮語と原則的には同じである。

（ｂ） 省略語を読み、その綴りを言ったり、逆に綴りを読みながら省略語を言うなどして記憶するのもよい。

（ｃ） 省略語は数も多く、初歩の読み物では、あまり多く出てこないものもあるので、教科書に出てきた順序に記憶しておくのもよい方法である。

（ｄ） 意味と関連させて整理するのもよい。

（参考例）

⠑⠊⠞⠓ （ｅｉｔｈｅｒ） ⠝⠑⠊⠞⠓ （ｎｅｉｔｈｅｒ）

⠁⠇⠗⠑⠁⠙⠽ （ａｌｒｅａｄｙ） ⠁⠇⠺⠁⠽⠎ （ａｌｗａｙｓ）

⠎⠕⠍⠑⠞⠊⠍⠑⠎ （ｓｏｍｅｔｉｍｅｓ）

⠑⠧⠑⠗ （ｅｖｅｒ） ⠝⠑⠧⠑⠗ （ｎｅｖｅｒ）

⠽⠕⠥ （ｙｏｕ） ⠽⠕⠥⠗ （ｙｏｕｒ） ⠽⠕⠥⠗⠎ （ｙｏｕｒｓ）

⠽⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠋ （ｙｏｕｒｓｅｌｆ） ⠽⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠧⠑⠎ （ｙｏｕｒｓｅｌｖｅｓ）

⠊⠞ （ｉｔ） ⠊⠞⠎ （ｉｔｓ） ⠊⠞⠎⠑⠇⠋ （ｉｔｓｅｌｆ）

⠓⠑⠽ （ｔｈｅｙ） ⠓⠑⠊⠗ （ｔｈｅｉｒ） ⠓⠑⠍ （ｔｈｅｍ）

⠓⠑⠍⠎⠑⠇⠧⠑⠎ （ｔｈｅｍｓｅｌｖｅｓ）

１３．　点字縮約の解説Ⅵ

(1)　下がり記号の縮約語（Ｌｏｗｅｒ‐ｗｏｒｄ　ｓｉｇｎｓ）

（ａ）　独立して用いるもの１

□⠆□　―　ｂｅ　　□⠖□　―　ｗｅｒｅ

□⠦□　―　ｈｉｓ　　□⠲□　―　ｗａｓ

（ｂ）　独立して用いるもの２

□⠢□　―　ｅｎｏｕｇｈ　　□⠔□　―　ｉｎ

(2)　使い方

下がり記号というのは、１の点も４の点も含まない記号を指す。これら六つの縮約語は、形が句読符と同じで、マスあけの仕方だけでそれらと区別しているから、混同を避けるため用法が厳しく制限されている。

（ａ）　ｂｅ、ｗｅｒｅ、ｈｉｓ、ｗａｓの４語の縮約語は、１の点又は４の点を含まない句読符とは使えない。大文字単語符や大文字終止符、イタリック単語符やイタリック終止符とは続けて書くことが出来る。スラッシュが続く場合は独立したと見なさないので、これらの縮約語は使えない。

(使い方の例)

⠠⠱⠖⠶⠶⠶⠠⠱⠖⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶

→　Ｗｈｅｒｅ　ｗｅｒｅ　ｙｏｕ　ｔｈｉｓ　ｍｏｒｎｉｎｇ？

(あなたは、今朝どこにいましたか。)

⠠⠊⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶

→　Ｉ　ｗａｓ　ｉｎ　ｔｈｅ　ｒｏｏｍ.

(私は、その部屋にいました。)

⠠⠠⠦　⠠⠠⠶⠶⠶

ＨＩＳ　ＤＯＧ

(彼の犬)

Ｂｅ　ｈａｐｐｙ.

→　⠰⠆⠠⠆　⠰⠆⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶

(幸せになりなさい。)

(使ってはならない例)

⠨⠄⠓⠊⠎ ⠓⠊⠎⠞⠕⠗⠽ ⠃⠕⠕⠅ ⠺⠁⠎⠄⠗⠕⠗ ⠗⠁⠞⠓⠑⠗
⠊⠎⠄⠊⠝ ⠞⠓⠑ ⠎⠁⠍⠑ ⠏⠇⠁⠉⠑ ⠍⠽ ⠃⠕⠕⠅⠎
⠺⠑⠗⠑⠄⠔ ⠓⠑ ⠎⠁⠊⠙⠄

→ “Ｈｉｓ ｈｉｓｔｏｒｙ ｂｏｏｋ ｗａｓ―ｏｒ ｒａｔｈｅｒ
ｉｓ―ｉｎ ｔｈｅ ｓａｍｅ ｐｌａｃｅ ｍｙ ｂｏｏｋｓ
ｗｅｒｅ，”ｈｅ ｓａｉｄ．
(「彼の歴史の本は、私の本があったのと同じ場所にあったと言うよりも、
むしろある。」と彼は言った。）を、

⠨⠄⠓⠊⠎ ⠓⠊⠎⠞⠕⠗⠽ ⠃⠕⠕⠅ ⠨⠄⠓⠊⠎ ⠓ ⠊⠎⠄⠊⠝ ⠓
⠞⠓⠑ ⠎⠁⠍⠑ ⠏⠇⠁⠉⠑ ⠍⠽ ⠃⠕⠕⠅⠎ ⠺⠑⠗⠑ ⠓⠑ ⠎⠁⠊⠙⠄
とは書けない。
⠨⠄⠓⠊⠎ を ⠨⠄⠓⠊⠎ とは書けない。
ｈｉｓ／ｈｅｒ
(彼または彼女)

（ｂ） ｅｎｏｕｇｈ、ｉｎの２語の縮約語は、１の点又は４の点を含まない句読符だけの場合は使えない。ただし、１の点や４の点を含む文字列や記号と結ばれている時には使える。また、大文字単語符や大文字終止符、イタリック単語符やイタリック終止符とは続けて書くことが出来る。ｅｎｏｕｇｈはスラッシュが続く場合は独立したと見なさないので、縮約語は使えない。ただし、ｉｎは縮約部でもあるので用いることができる。
(使い方の例)

→ ⠊⠞ ⠺⠁⠎ ⠑⠝⠕⠥⠛⠓
ｉｔ ｗａｓ ｅｎｏｕｇｈ
(それは十分だった)
⠐⠣⠊⠞ ⠺⠁⠎ ⠑⠝⠕⠥⠛⠓⠐⠜
→ （ｉｔ ｗａｓ ｅｎｏｕｇｈ）
⠃⠗⠕⠞⠓⠑⠗⠤⠊⠝⠤⠇⠁⠺
ｂｒｏｔｈｅｒ－ｉｎ－ｌａｗ
(義理の兄弟)
⠊⠝⠸⠌⠕⠥⠞
ｉｎ／ｏｕｔ
(内もしくは外)

（使ってはならない例）

→ ⠭⠊⠺⠁⠎ ⠑⠝⠕⠥⠛⠓⠲

Ｉｔ　ｗａｓ　ｅｎｏｕｇｈ．

⠑⠝⠕⠥⠛⠓⠸⠌⠎⠥⠋⠋⠊⠉⠊⠑⠝⠞

ｅｎｏｕｇｈ／ｓｕｆｆｉｃｉｅｎｔ

(3)　学習のヒント

（ａ）　これらの下がり縮約語は、１又は４の点を含まない句読符だけとは続けられない。ただし、それらの句読符に、１又は４の点を含む文字列もしくは記号が続く場合には、使うことが出来るので注意を要する

１４．　点字縮約の解説Ⅶ

(1)　下がりの縮約部（Ｌｏｗｅｒ　ｇｒｏｕｐ　ｓｉｇｎｓ）

（ａ）　単語の始めの部分にだけ用いるもの

⠆□□　―　ｂｅ　　⠒□□　―　ｃｏｎ　　⠲□□　―　ｄｉｓ

（ｂ）　単語の中の部分にだけ用いるもの

□□⠢□□　―　ｅａ　　□□⠆□□　―　ｂｂ

□□⠒□□　―　ｃｃ　　□□⠒□□　―　ｆｆ

□□⠶□□　―　ｇｇ

(2)　使い方

句読符と同じように、１の点も４の点も含んでいない下がり記号の縮約語は、互いに続けられないことを既に学んでいる。ｅｎとｉｎの綴り字を表す二つの縮約部だけは、下がり記号であっても、制限つきではあるが、他の１マスの縮約部と共に単語の終わりの部分にも用いることができた。しかしながら、ここで扱う８個の下がり記号の縮約部は、単語のはじめか中のどちらか一つの部分にしか使えず、その用法も厳しく制限されている。

（ａ）　ｂｅ、ｃｏｎ、ｄｉｓを表す縮約部は、単語のはじめの音節に用いる。さらに、複合語のハイフンの後ろ及びダッシュやアポストロフィーの後ろに続けて用いる。また、大文字符やイタリック符の後ろに続けて用いる。ただ、大文字符や大文字終止符が、あとに続く場合はこれらの縮約部は使えない。

(使い方の例)

⠆⠑⠇⠊⠑⠧⠑　→　<u>ｂｅ</u>ｌｉｅｖｅ

⠲⠊⠎⠉⠕⠧⠻　→　<u>ｄｉｓ</u>ｃｏｖ<u>ｅｒ</u>

⠒⠉⠕⠝⠉⠻⠞　→　<u>ｃｏｎ</u>ｃ<u>ｅｒ</u>ｔ

⠎⠑⠇⠋⠤⠉⠕⠝⠞⠗⠕⠇　→　ｓｅｌｆ－<u>ｃｏｎ</u>ｔｒｏｌ（自制）

(使ってはならない例)

⠆⠌⠎⠞（ｂｅｓｔ）のｂｅは、独立した１音節ではないので、⠆⠒とは書けない。

⠲⠌⠱（ｄｉｓｈ）も、同じく⠲⠱とは書けない。

⠥⠝⠆⠑⠇⠊⠑⠧⠁⠃⠇⠑（ｕｎｂｅｌｉｅｖａ<u>ｂｌｅ</u>）（信じられない）のｂｅ は、接頭辞のｕｎと結合して、語の中の部分となったので、

⠥⠝⠆⠑⠇⠊⠑⠧⠁⠃⠇⠑ とは書けない。

（ｂ）　ｅａ、ｂｂ、ｃｃ、ｆｆ、ｇｇ を表す５個の縮約部は、単語の中で、前後とも、文字・縮約・文字にアクセントがついていることを表すのに用いられる修飾符、または文字と文字をつなぐ合字符の付いた文字ではさまれていれば、用いる。しかし、複合語の要素の間及び語根と接尾辞の間はまたがない。さらに、前後の文字列に、大文字指示符、大文字終止符、書体指示符、書体終止符、句読符が接する場合は用いることができない。

(使い方の例)

⠑⠛⠛⠎　→　ｅggｓ

⠙⠊⠋⠋⠑⠗⠑⠝⠞　→　ｄｉffｅｒｅｎｔ

⠓⠕⠃⠃⠽　→　ｈｏbbｙ

⠃⠊⠛⠛⠑⠗　→　ｂｉggｅｒ

⠁⠉⠉⠊⠙⠑⠝⠞　→　ａccｉｄｅｎｔ

⠙⠊⠋⠋⠊⠉⠥⠇⠞　→　ｄｉffｉｃｕｌｔ

(使ってはならない例)

⠑⠛⠛⠑　（ｅｇｇ）は、⠑⠛⠑とは書けない。

⠑⠋⠋⠕⠗⠞　（ｅｆｆｏｒｔ）の場合、マス数が増えるので、⠑⠋⠑⠕⠗⠞とは書けない。

⠕⠋⠋⠊⠉⠑　（ｏｆｆｉｃｅ）のｏｆはｆｆに優先されるので、⠕⠋⠑⠊⠉⠑とは書けない。

⠠⠎⠑⠁⠠⠺⠕⠗⠇⠙　（ＳｅａＷｏｒｌｄ）は ⠠⠎⠑⠠⠺⠕⠗⠇⠙ とは書けない。

⠃⠃⠊⠞⠑⠤⠞⠊⠙⠑　（ｅｂｂ－ｔｉｄｅ　引き潮）のｂｂは、ハイフンと続いているので⠃⠃⠊⠞⠑⠤⠞⠊⠙⠑とは書けない。

（ｃ）　ｅａを表す縮約部は、単語の中だけに用い、接頭辞と語根にまたがる場合は用いない。ただし、接頭辞に続く部分や語根と接尾辞の間にまたがる場合は用いることが出来る。また単語のはじめの部分や単語の後ろの部分には用いない。複合語の場合も、つながれた語の間をまたがなければ用いることが出来る。

(使い方の例)

⠍⠑⠁⠝　→　ｍｅａｎ　⠃⠑⠁⠥⠞⠊⠋⠥⠇　→　ｂｅａｕｔｉｆｕｌ

⠞⠑⠁⠉⠥⠏　→　ｔｅａｃｕｐ

⠎⠑⠁⠱⠕⠗⠑　→　ｓｅａｓｈｏｒｅ（海岸）

⠎⠕⠥⠞⠓⠑⠁⠎⠞　→　ｓｏｕｔｈｅａｓｔ　（南東）

⠥⠝⠑⠁⠎⠽　→　ｕｎｅａｓｙ　（不安な）

⠉⠓⠁⠝⠛⠑⠁⠃⠇⠑　→　ｃｈａｎｇｅａｂｌｅ　（変更可能の）

（使ってはならない例）

⠑⠁⠞（ｅａｔ）のｅａは、語のはじめの部分であるから、⠑⠁とは書けない。

⠞⠑⠁（ｔｅａ）のｅａは、語の後ろの部分であるから、⠞⠑とは書けない。

⠏⠊⠝⠁⠏⠏⠇⠑（ｐｉｎｅａｐｐｌｅ）（パイナップル）のｅａは、複合語の各要素の間の音節をまたいでいるので、⠏⠊⠝⠁⠏⠏⠇⠑とは書けない。

⠽⠑⠁⠗（ｙｅａｒ）のａｒは、ｅａより優先されるので、⠽⠑⠗とは書けない。

⠞⠓⠑⠁⠞⠻（ｔｈｅａｔｅｒ）のｔｈｅも、ｅａより優先されるので、⠞⠓⠑⠞⠻とは書けない。

⠎⠑⠁⠤⠎⠝⠁⠅⠑（ｓｅａ－ｓｎａｋｅ）（海ヘビ）のｅａは、ハイフンとつながっているので、⠎⠑⠁⠤⠎⠝⠁⠅⠑とは書けない。

⠎⠳⠄⠑⠁⠌⠞（ｓｏｕ’ｅａｓｔ）（ｓｏｕｔｈｅａｓｔの短縮形）のｅａは、アポストロフィーとつながっているので、⠎⠳⠄⠑⠁⠌⠞とは書けない。

(3)　学習のヒント

下がり記号の縮約語と縮約部を、句読符と共に前後ろのマスあけの関係で関連付けて整理するとよい。

２の点は、前に続けるとコンマになり、前後ろに続けるとｅａの縮約部となる。しかし、後ろにだけ続けたり、前後ろをあけたりする場合はない。

２・３の点は、前に続ければセミコロン、前後ろに続けるとｂｂの縮約部、後ろに続けるとｂｅの縮約部、前後ろをあけるとｂｅの縮約語となる。

２・５の点は、前に続けるとコロン、前後ろ続きがｃｃの短縮部、後ろ続きはｃｏｎの縮約部となるが、前後ろあけはない。

また、２・５・６の点も、前続きは終止符、前後ろ続きは小数点、後ろ続きはｄｉｓの縮約部で、前後ろあけはエリプシスになる。

２・６の点は、前、前後ろ又は後ろに続ければ、ｅｎの縮約部となり、前後ろあけはｅｎｏｕｇｈの縮約語となる。

２・３・５の点は、前に続ければ感嘆符、前後ろ続きがｆｆの縮約部になる。

２・３・５・６の点は、前後ろ続きはｇｇの縮約部、前後ろあけはｗｅｒｅの縮約語となる。

２・３・６の点は、前に続けば疑問符、後ろに続けばコーテーションマークの開き、前後ろあけはｈｉｓの縮約語となる。

３・５の点は、ｉｎを表すが、前後ろあけは縮約語、その他は縮約部である。

３・５・６の点は、前に続けばコーテーションマークの閉じ記号で、前後ろあけはｗａｓの縮約語となる。

(4)　点字縮約を学び終えて

これで、米英で普通に用いられている標準的な英語の点字を学ぶことができた。まず、点字縮約を用いないｇｒａｄｅⅠの英語の点字を学んだ後、点字縮約を含むｇｒａｄｅⅡの英語の点字を七つの段階に分けて学んだ。最初の２つの段階は、単語全体を一マスや二マスの点字に短縮して表す縮約語、次の段階は一マス又は二マスで単語の一部を表す縮約部、そのあとに続く２つの段階は綴りの一部を使って単語を表す省略形、最後の２つは下がり記号で単語を表す縮約語と、下がり記号で単語の一部を表す縮約部を表す。

なお、これらの七つの段階に点字縮約を整理して、次の章に段階別一覧表を掲げた。これで、米英の書籍や雑誌及び高等部の点字の教科書を自由に読むことができ、英文を速く正確に書くための基礎的能力を習得したことになる。更に、一層正確に書くためには本書の後半に掲載された規則に完全に習熟することが必要である。

１５．英語の点字縮約段階別一覧表

(1)　縮約語（Contractions）　１マスのもの

(a)　アルファベットと同じ形のもの

⠃ — but　⠉ — can　⠙ — do

⠑ — every　⠋ — from　⠛ — go

⠓ — have　⠚ — just　⠅ — knowledge

⠇ — like　⠍ — more　⠝ — not

⠏ — people　⠟ — quite　⠗ — rather

⠎ — so　⠞ — that　⠥ — us

⠧ — very　⠺ — will　⠭ — it

⠽ — you　⠵ — as

(b)　その他の１マスの縮約語

⠯ — and　⠿ — for　⠷ — of　⠮ — the

⠾ — with　⠡ — child　⠩ — shall

⠹ — this　⠱ — which　⠳ — out

⠻ — still

(2)　縮約語（Contractions）　２マスのもの

(a)　５の点と組み合わせるもの

⠰⠙ — day　⠰⠑ — ever　⠰⠋ — father

⠰⠓ — here　⠰⠅ — know　⠰⠇ — lord

⠰⠍ — mother　⠰⠝ — name　⠰⠕ — one

⠰⠏ — part　⠰⠟ — question

⠰⠗ — right　⠰⠎ — some　⠰⠞ — time

⠰⠥ — under　⠰⠧ — work　⠰⠽ — young

⠰⠮ — there　⠰⠭ — character

⠰⠹ — through　⠰⠱ — where　⠰⠳ — ought

(b)　４・５の点と組み合わせるもの

⠐⠥ — upon　⠐⠧ — word　⠐⠮ — these

⠐⠹ — those　⠐⠱ — whose

(c)　４・５・６の点と組み合わせるもの

⠈⠉ — cannot　⠈⠙ — had　⠈⠍ — many

⠈⠎ — spirit　⠈⠝ — world　⠈⠮ — their

(3)　１マスと２マスの縮約部

縮約部（Wordsigns）　１マスのもの

(a)　１マスの縮約部の中で、他に優先して用いられるもの

⠯ — and　⠿ — for　⠷ — of　⠮ — the

⠾ — with

(b)　原則として、音節をまたがない限り、単語のどの部分にも用いるもの

⠡ — ch　⠣ — gh　⠱ — sh　⠹ — th

⠱ — wh　⠫ — ed　⠻ — er　⠳ — ou

⠪ — ow　⠌ — st　⠜ — ar　□⠢□ — en

□⠔□ — in

(c)　単語のはじめの部分には用いないもの

⠬ — ing

２マスの縮約部（Final-letter groupsigns）

(a)　４・６の点と組み合わせるもの

⠰⠳ — ound　⠰⠢ — ance　⠰⠱ — sion

⠰⠎ — less　⠰⠞ — ount

(b)　５・６の点と組み合わせるもの

⠐⠢ — ence　⠐⠛ — ong　⠐⠇ — ful

⠐⠝ — tion　⠐⠎ — ness　⠐⠞ — ment

⠐⠽ — ity

(4)　省略形（Shortforms）１

(a)　最初の２マスを残して後ろを省略する場合

⠁⠧ — about　⠁⠗ — according

⠁⠋ — after　⠁⠛ — again　⠁⠇ — also

⠃⠉ — because　⠃⠑ — before

⠃⠓ — behind　⠃⠇ — below

⠃⠝ — beneath　⠃⠎ — beside

⠃⠞ — between　⠃⠽ — beyond

⠃⠇ — blind　⠄⠑ — either

⠋⠗ — friend

(b)　骨組みだけを残して、母音などを省略する場合

⠉⠓ — children　⠉⠙ — could

⠋⠌ — first　⠛⠙ — good　⠓⠍ — him

⠊⠞ — its　⠇⠞ — letter　⠇⠁ — little

⠍⠥⠉⠓ — much　⠍⠥⠌⠞ — must　⠏⠁⠊⠙ — paid
⠟⠥⠊⠉⠅ — quick　⠎⠁⠊⠙ — said　⠩⠕⠥⠇⠙ — should
⠎⠥⠉⠓ — such　⠞⠕⠙⠁⠽ — today
⠞⠕⠍⠕⠗⠗⠕⠺ — tomorrow　⠞⠕⠝⠊⠛⠓⠞ — tonight
⠺⠕⠥⠇⠙ — would　⠽⠕⠥⠗ — your
⠁⠃⠕⠧⠑ — above　⠁⠋⠞⠑⠗⠝⠕⠕⠝ — afternoon
⠁⠋⠞⠑⠗⠺⠁⠗⠙ — afterward　⠁⠛⠁⠊⠝⠎⠞ — against
⠃⠗⠁⠊⠇⠇⠑ — braille　⠛⠗⠑⠁⠞ — great
⠞⠕⠛⠑⠞⠓⠑⠗ — together

(5)　省略形（Shortforms）２

(a)　最初の３マスを残して、後ろを省略する場合

⠁⠉⠗⠕⠎⠎ — across　⠁⠇⠍⠕⠎⠞ — almost
⠁⠇⠗⠑⠁⠙⠽ — already　⠁⠇⠺⠁⠽⠎ — always
⠁⠇⠞⠕⠛⠑⠞⠓⠑⠗ — altogether　⠁⠇⠞⠓⠕⠥⠛⠓ — although
⠊⠍⠍⠑⠙⠊⠁⠞⠑ — immediate　⠝⠑⠉⠑⠎⠎⠁⠗⠽ — necessary
⠝⠑⠊⠞⠓⠑⠗ — neither　⠏⠑⠗⠓⠁⠏⠎ — perhaps

(b)　…self、…selves が付く語の一部を省略する場合

⠍⠽⠎⠑⠇⠋ — myself　⠽⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠋ — yourself
⠓⠊⠍⠎⠑⠇⠋ — himself　⠓⠑⠗⠎⠑⠇⠋ — herself
⠊⠞⠎⠑⠇⠋ — itself　⠕⠝⠑⠎⠑⠇⠋ — oneself
⠞⠓⠽⠎⠑⠇⠋ — thyself　⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠧⠑⠎ — ourselves
⠽⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠧⠑⠎ — yourselves
⠞⠓⠑⠍⠎⠑⠇⠧⠑⠎ — themselves

(c)　e を省いて現在分詞を作る語の一部を省略する場合

⠉⠕⠝⠉⠑⠊⠧⠑ — conceive　⠉⠕⠝⠉⠑⠊⠧⠊⠝⠛ — conceiving
⠙⠑⠉⠑⠊⠧⠑ — deceive　⠙⠑⠉⠑⠊⠧⠊⠝⠛ — deceiving
⠙⠑⠉⠇⠁⠗⠑ — declare　⠙⠑⠉⠇⠁⠗⠊⠝⠛ — declaring
⠏⠑⠗⠉⠑⠊⠧⠑ — perceive
⠏⠑⠗⠉⠑⠊⠧⠊⠝⠛ — perceiving
⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠑ — receive　⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠊⠝⠛ — receiving
⠗⠑⠚⠕⠊⠉⠑ — rejoice　⠗⠑⠚⠕⠊⠉⠊⠝⠛ — rejoicing

（6）　下がり縮約語（Lower wordsigns）

（a）　独立して用いるもの

□⠆□　―　be　　□⠢□　―　enough　　□⠖□　―　were

□⠎□　―　his　　□⠔□　―　in　　□⠲□　―　was

（7）　下がり縮約部（Lower groupsigns）

（a）　単語のはじめの部分にだけ用いるもの

⠆□□　―　be　　⠒□□　―　con　　⠲□□　―　dis

（b）　単語の中の部分にだけ用いるもの

□□⠢□□　―　ea　　□□⠆□□　―　bb　　□□⠒□□　―　cc

□□⠖□□　―　ff　　□□⠶□□　―　gg

１６．　英語の点字縮約アルファベット順一覧表

１マスや２マス、又は下がり記号の縮約語と縮約部及び省略形のすべてをアルファベット順に整理すると次のとおりである。

about　＝　⠁⠃

above　＝　⠁⠃⠧

according　＝　⠁⠉

across　＝　⠁⠉⠎

after　＝　⠁⠋

afternoon　＝　⠁⠋⠝

afterward　＝　⠁⠋⠺

again　＝　⠁⠛

against　＝　⠁⠛⠊⠍

almost　＝　⠁⠇⠍⠌

already　＝　⠁⠇⠗⠽

also　＝　⠁⠇⠕

although　＝　⠁⠇⠕⠭

altogether　＝　⠁⠇⠞⠛

always　＝　⠁⠇⠺⠁

ance　＝　⠠⠁⠝⠉

and　＝　⠯

ar　＝　⠜

as　＝　⠵

bb　＝　□□⠂□□

be　＝　□⠂□

because　＝　⠆⠉

before　＝　⠆⠓

behind　＝　⠆⠓⠝

below　＝　⠆⠇

beneath　＝　⠆⠑⠹

beside　＝　⠆⠎⠊

between　＝　⠆⠞⠑⠝

beyond　＝　⠆⠽⠝

blind　＝　⠃⠇⠊⠝

braille　＝　⠃⠗⠁⠊⠇

but　＝　⠃

can　＝　⠉

cannot = ⠉⠝⠞

cc = ⠈⠈⠒⠒⠈⠈

ch = ⠡

character = ⠐⠡

child = ⠡

children = ⠡⠝

con = ⠒⠒⠈⠈

conceive = ⠒⠒⠉⠑

conceiving = ⠒⠒⠉⠑⠬

could = ⠉⠙

day = ⠐⠙

deceive = ⠙⠉⠑

deceiving = ⠙⠉⠑⠬

declare = ⠙⠉⠗

declaring = ⠙⠉⠗⠬

dis = ⠲⠈⠈

do = ⠙

ea = ⠈⠈⠂⠂⠈⠈

ed = ⠫

either = ⠐⠑

en = ⠈⠢⠈

ence = ⠢⠑

enough = ⠈⠢⠈

er = ⠻

ever = ⠐⠑

every = ⠑

father = ⠐⠋

ff = ⠈⠈⠶⠶⠈⠈

first = ⠋⠎

for = ⠿

friend = ⠋⠗

from = ⠋

ful = ⠐⠇

gg = ⠈⠈⠛⠛⠈⠈

gh = ⠣

go = ⠛

good = ⠛⠙

great = ⠛⠗⠞

had = ⠓⠁⠙

have = ⠓⠧⠑

here = ⠓⠑⠗⠑

herself = ⠓⠑⠗⠋⠑⠇⠋

him = ⠓⠊⠍

himself = ⠓⠊⠍⠋⠑⠇⠋

his = ⠦⠓⠊⠎⠦

immediate = ⠊⠍⠍⠑⠙⠊⠁⠞⠑

in = ⠦⠔⠊⠝⠦

ing = ⠬

it = ⠭

its = ⠭⠞⠎

itself = ⠭⠞⠋

ity = ⠽⠞⠽

just = ⠚⠥⠎⠞

know = ⠅⠝⠕⠺

knowledge = ⠅⠝⠕⠺⠇⠑⠙⠛⠑

less = ⠇⠑⠎⠎

letter = ⠇⠑⠞⠞⠑⠗

like = ⠇⠊⠅⠑

little = ⠇⠊⠞⠞⠇⠑

lord = ⠇⠕⠗⠙

many = ⠍⠁⠝⠽

ment = ⠍⠑⠝⠞

more = ⠍⠕⠗⠑

mother = ⠍⠕⠞⠓⠑⠗

much = ⠍⠥⠉⠓

must = ⠍⠥⠌⠞

myself = ⠍⠽⠎⠋⠑⠇⠋

name = ⠝⠁⠍⠑

necessary = ⠝⠑⠉⠑⠎⠎⠁⠗⠽

neither = ⠝⠑⠊⠞⠓⠑⠗

ness = ⠝⠑⠎⠎

not = ⠝⠕⠞

of = ⠷

one = ⠐⠕⠑

oneself = ⠐⠕⠑⠋⠑

ong = ⠐⠕⠛

ou = ⠳

ought = ⠐⠕⠞

ound = ⠙⠕⠞

ourselves = ⠳⠗⠕⠑⠎

ount = ⠙⠕⠞

out = ⠳⠞

ow = ⠪

paid = ⠏⠁⠊⠙

part = ⠐⠕⠗⠞

people = ⠏⠑⠕⠏⠇⠑

perceive = ⠏⠑⠗⠉⠑⠊⠧⠑

perceiving = ⠏⠑⠗⠉⠑⠊⠧⠊⠝⠛

perhaps = ⠏⠑⠗⠓⠁⠏⠎

question = ⠐⠟⠥⠑⠎⠞⠊⠕⠝

quick = ⠟⠥⠊⠉⠅

quite = ⠟⠥⠊⠞⠑

rather = ⠗⠁⠞⠓⠑⠗

receive = ⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠑

receiving = ⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠊⠝⠛

rejoice = ⠗⠑⠚⠕⠊⠉⠑

rejoicing = ⠗⠑⠚⠕⠊⠉⠊⠝⠛

right = ⠐⠗⠊⠛⠓⠞

said = ⠎⠁⠊⠙

sh = ⠩

shall = ⠩⠇⠇

should = ⠩⠇⠙

sion = ⠎⠊⠕⠝

so = ⠎⠕

some = ⠐⠎⠍⠑

spirit = ⠎⠏⠗⠊⠞

st = ⠌

still = ⠌⠊⠇⠇

such = ⠎⠁⠉⠓

th = ⠹

that = ⠞

the = ⠮

their = ⠞⠓⠑

themselves = ⠞⠓⠑⠍⠑⠇⠧⠑⠎

there = ⠞⠓⠑⠗⠑

these = ⠞⠓⠑⠎⠑

this = ⠹

those = ⠞⠓⠕⠎⠑

through = ⠞⠓⠗⠕⠥⠛⠓

thyself = ⠹⠽⠎⠑⠇⠋

time = ⠞⠊⠍⠑

tion = ⠞⠊⠕⠝

today = ⠞⠕⠙⠁⠽

together = ⠞⠕⠛⠑⠞⠓⠑⠗

tomorrow = ⠞⠕⠍⠕⠗⠗⠕⠺

tonight = ⠞⠕⠝⠊⠛⠓⠞

under = ⠥⠝⠙⠑⠗

upon = ⠥⠏⠕⠝

us = ⠥⠎

very = ⠧⠑⠗⠽

was = ⠱⠺⠁⠎⠱

were = ⠱⠺⠑⠗⠑⠱

wh = ⠺⠓

where = ⠺⠓⠑⠗⠑

which = ⠺⠓⠊⠉⠓

whose = ⠺⠓⠕⠎⠑

will = ⠺⠊⠇⠇

with = ⠺⠊⠹

word = ⠺⠕⠗⠙

work = ⠺⠕⠗⠅

world = ⠺⠕⠗⠇⠙

would = ⠺⠕⠥⠇⠙

you = ⠽⠕⠥

young = ⠽⠕⠥⠝⠛

your = ⠽⠳⠗

yourself = ⠽⠳⠗⠎⠑⠇⠋

yourselves = ⠽⠳⠗⠎⠑⠇⠧⠑⠎

１７．　英語の点字縮約字形別一覧表

英語の点字縮約のすべてを字の形を見出しとしてまとめると次の一覧表のとおりである。字の形の配列順序は、「点字の配列表」の順序に従った。

他の綴り字がある場所を示す場合には□□を用いている。

字の形の見出し語は、原則として同じ形のものは一つとし、その字形が表す綴り字については、縮約語を前に、縮約部を後ろに掲げてある。

⠁⠃　＝　about

⠁⠃⠉　＝　above

⠁⠉　＝　according

⠁⠉⠑　＝　across

⠁⠋　＝　after

⠁⠋⠝　＝　afternoon

⠁⠋⠺　＝　afterward

⠁⠛　＝　again

⠁⠛⠊　＝　against

⠁⠇　＝　also

⠁⠇⠍　＝　almost

⠁⠇⠗　＝　already

⠁⠇⠞　＝　altogether

⠁⠇⠓　＝　although

⠁⠇⠺　＝　always

⠃　＝　but

⠃⠇　＝　blind

⠃⠗⠇　＝　braille

⠉　＝　can

⠉⠙　＝　could

⠙　＝　do

⠙⠉⠑　＝　declare

⠙⠉⠑⠛　＝　declaring

⠙⠉⠊　＝　deceive

⠙⠉⠊⠛　＝　deceiving

⠑　＝　every

⠑⠊　＝　either

⠋　＝　from

⠋⠗　＝　friend

⠋⠊　＝　first

⠹ = go

⠸⠙ = good

⠸⠛⠚ = great

⠓ = have

⠓⠁ = him

⠓⠍⠎ = himself

⠓⠑⠎ = herself

⠊⠍⠍ = immediate

⠚ = just

⠅ = knowledge

⠇ = like

⠇⠁ = little

⠇⠑ = letter

⠍ = more

⠍⠽⠎ = myself

⠍⠥ = much

⠍⠌ = must

⠝ = not

⠝⠑⠉ = necessary

⠝⠑⠊ = neither

⠏ = people

⠏⠁ = paid

⠏⠻⠉⠽ = perceive

⠏⠻⠉⠽⠬ = perceiving

⠏⠻⠓ = perhaps

⠟ = quite

⠟⠅ = quick

⠗ = rather

⠗⠻⠉⠽ = receive

⠗⠻⠉⠽⠬ = receiving

⠗⠖⠚ = rejoice

⠗⠖⠚⠬ = rejoicing

⠎ = so

⠎⠙ = said

⠎⠉ = such

⠞ = that

⠞⠕⠙⠁⠽ = today

⠞⠕⠛⠑⠞⠓⠑⠗ = together

⠞⠕⠍⠕⠗⠗⠕⠺ = tomorrow

⠞⠕⠝⠊⠛⠓⠞ = tonight

⠥⠎ = us

⠧⠑⠗⠽ = very

⠊⠞ = it

⠊⠞⠎⠑⠇⠋ = itself

⠊⠞⠎ = its

⠽⠕⠥ = you

⠽⠕⠥⠗ = your

⠽⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠋ = yourself

⠽⠕⠥⠗⠎⠑⠇⠧⠑⠎ = yourselves

⠁⠎ = as

⠯ = and

⠿ = for

⠷ = of

⠮ = the

⠮⠍⠎⠑⠇⠧⠑⠎ = themselves

⠾ = with

⠉⠓ = child ; ch

⠉⠓⠊⠇⠙⠗⠑⠝ = children

⠓⠛ = gh

⠩⠓ = shall ; sh

⠩⠓⠕⠥⠇⠙ = should

⠹ = this ; th

⠹⠽⠎⠑⠇⠋ = thyself

⠱ = which ; wh

⠫ = ed

⠻ = er

⠳ = out ; ou

⠳⠽⠎⠑⠇⠧⠑⠎ = ourselves

⠪ = ow

⠺ = will

⠺⠕⠥⠇⠙ = would

□⠑□= □□ea□□

□⠁□ = be ; be□□ ; □□bb□□

⠃ = because

⠆ = before

⠇ = behind

⠈ = below

⠊ = beneath

⠌ = beside

⠎ = between

⠐ = beyond

□⠉□ = con□□ ; □□cc□□

⠒ = conceive

⠒⠖ = conceiving

□⠋□ = dis□□

□⠑□ = enough ; en

□⠓□ = □□ff□□

□⠛□ = were ; □□gg□□

□⠚□ = his

□⠝□ = in

□⠞□ = was

⠡ = still ; st

⠣ = □□ing

⠥ = ar

⠦ = upon

⠨ = these

⠩ = those

⠪ = whose

⠬ = word

⠮ = cannot

⠯ = had

⠱ = many

⠲ = spirit

⠴ = their

⠶ = world

⠹ = day

⠻ = ever

⠽ = father

⠐⠓ = here
⠐⠅ = know
⠐⠇ = lord
⠐⠍ = mother
⠐⠝ = name
⠐⠕ = one
⠐⠕⠎ = oneself
⠐⠏ = part
⠐⠟ = question
⠐⠗ = right
⠐⠎ = some
⠐⠞ = time
⠐⠥ = under
⠐⠽ = young
⠐⠮ = there
⠐⠉ = character
⠐⠹ = through
⠐⠱ = where
⠐⠳ = ought
⠐⠺ = work
⠰⠍ = □□ound
⠰⠑ = □□ance
⠰⠊ = □□sion
⠰⠎ = □□less
⠰⠞ = □□ount
⠰⠧ = □□ence
⠰⠛ = □□ong
⠰⠇ = □□ful
⠰⠝ = □□tion
⠰⠎ = □□ness
⠰⠞ = □□ment
⠰⠽ = □□ity